

令和 2 年度

事業報告書

公益財団法人 東京動物園協会

目 次

第1 運 営 の 概 要	
I. 運 営 概 要	1
第2 公 益 目 的 事 業	
I. 事 業 総 括	3
〔1〕 管 理 施 設	3
〔2〕 主 な 実 施 事 項	4
II. 事 業 実 績	21
〔1〕 飼 育 ・ 展 示 事 業	21
〔2〕 野 生 生 物 保 全 事 業	32
〔3〕 教 育 普 及 事 業	34
〔4〕 市 民 ・ 団 体 と の 協 働 事 業	54
〔5〕 利 用 者 サ ー ビ ス	63
〔6〕 安 全 ・ 安 心 の 確 保	71
〔7〕 受 託 業 務	76
第3 収 益 事 業	
I. 事 業 総 括	79
II. 事 業 実 績	80
〔1〕 便 益 施 設 の 経 営	80
〔2〕 そ の 他 の 事 業	83
第4 決 算 概 要	84
第5 事 務 報 告	
I. 役 員 会 議 の 開 催	85
II. 監 査	86
III. 人 事 関 係	87
IV. 組 織 概 要	91

第1 運営の概要

I. 運営概要

令和2年度、東京都は、新型コロナウイルス感染拡大防止の一環として、都立動物園・水族園の長期に渡る臨時休園を実施した。長い歴史を持つ協会にとっても経験したことのない厳しい年となった。

年度当初から4園全てが臨時休園となり、6月に順次再開園したものの、その後の感染再拡大に伴い、12月26日から年度末まで再び全て臨時休園になったことで、1年のうち5か月以上の長期間に渡ってお客様をお迎えすることができなかった。

これにより、4園合計の入園者数は約167万人に留まり、令和元年度の約640万人から大きく減少した。また、園内売店や飲食店等の収益事業においても、通信販売の強化などによる収入確保に努めたものの、4園の収入は昨年度の約29.6億円から約13.1億円と大幅な減収・減益となった。

このように極めて厳しい1年であったが、協会としての創立時からの使命である「動物園及び水族園事業の発展振興」、「人と動物の共存への貢献」のため、長年培ってきた技術・経験を土台とし、各園の個性を発揮して、我が国の動物園・水族館の先導役としての役割を果たすべく、以下の5つの取組を積極的に展開した。

1 野生生物本来の生態や魅力を引き出す「動物の飼育・展示」

豊富な飼育繁殖技術を活用して展示の充実に努めるとともに、国内外の動物園・水族館との連携により、展示動物の交流や、技術交流などの共同事業を推進することで展示内容の充実及び魅力向上を図った。

【主な取組】

- 新たにオープンした「パンダのもり」における生息地の自然を再現した展示。メンダコの卵のふ化の様子をリアルタイムモニターで展示するなど展示の充実。
- 国際会議等へオンラインにより参加するなど、各方面の専門家との人的・技術交流による最新の知見や飼育技術の向上 など

2 「第2次ズーストック計画」の対象種など希少種を中心とした「野生生物の保全」

「野生生物保全センター」を中心に4園が役割分担し、計画的な野生生物の保全活動を展開した。また、葛西臨海水族園と井の頭自然文化園においては、環境省より「認定希少種保全動物園等」に認定された。

【主な取組】

- アジアゾウ、キリン、チーター、オランウータン、レッサーパンダ、オウサマペンギンなど希少動物の繁殖。
- アカガシラカラスバト、ルリカケスなどの保全に関する普及啓発 など

3 多様なプログラムや情報発信による「教育普及」

4園ともに新型コロナウイルス感染症の影響でイベント等の対面での開催は休止又は中止となったが、教育普及センターのもと、各園が特色を活かしながらICTを活用した教育プログラムを精力的に展開し、社会教育施設としての活動を推進するとともに、魅力を広く発信した。

【主な取組】

- パソコンやスマートフォンで自宅からでも園内の見どころや生き物の観察ができる新たなウェブコンテンツ「東京 Zoovie Maps & Tours」を、都立動物園・水族園公式サイト「東京ズーネット」にて公開。
- 学校教育との連携を強化するため、来園できない時期においても授業に動物園・水族園を活用してもらうため「学校の授業に活かせる動画集」を作成しYouTubeで公開など

4 多様なニーズにきめ細かく対応する「利用者サービス」

新型コロナウイルス感染症への対応として「新しい動物園・水族園の楽しみ方」を定めるとともに、入場券の窓口発券機に加え、自動券売機でもクレジットカード決済を導入するなど、利用者サービスの向上を図った。

【主な取組】

- 上野動物園と葛西臨海水族園においては、事前予約整理券システムを導入し、入場制限を実施（多摩動物公園においても秋の繁忙期の土日祝日については、同様の入場制限を実施）。
- シャンシャンの3歳記念商品を通信販売で先行販売するなど通信販売の強化を行うとともに、京王百貨店新宿店において期間限定店の出店など園外での販売を実施。
- 若年層を主なターゲットとした新たなSNSによる情報発信施策として、都立動物園・水族園の公式Instagramを開設 など

5 万全な施設管理や危機管理体制の整備による「安全・安心の確保」

園内施設の適切な点検・補修などにより良好な園内環境を確保するとともに、テレワークや交代制勤務の導入など、動物園・水族園事業の継続に支障がないよう各園で感染防止策に努め、お客様の安全・安心の確保を図った。

【主な取組】

- 施設、設備や樹木等の日常点検、剪定及び不具合への迅速な対応。
- 園内で新型コロナウイルス感染症のクラスターが発生した場合を想定したコロナ対策事業継続訓練の実施
- 前年度の多摩動物公園インドサイ舎において発生した職員死亡事故を受け、動物事故再発防止対策を実施 など

第2 公益目的事業

都立動物園・水族園4園の指定管理者として管理運営を行うとともに、動物園事業の発展・振興を図り、動物とその生息環境について知識を広め、人と動物の共存に貢献することを目的に、動物飼育及び展示業務、野生生物保全業務、教育普及業務、市民・団体との協働に関する業務、利用者サービスに関する業務、安全・安心の確保に関する業務、受託業務を実施した。

I. 事業総括

〔1〕管理施設

名 称	住 所	開園面積 (㎡)	摘 要
恩賜上野動物園	台東区上野公園、池之端三丁目	144,048.73	
多摩動物公園	日野市程久保六丁目、七丁目、 南平八丁目	601,372.54	うち無料開園区域 77,508.22㎡
葛西臨海水族園	江戸川区臨海町六丁目	85,958.90	
井の頭自然文化園	武蔵野市御殿山一丁目、 三鷹市井の頭四丁目	115,500.00	

〔2〕主な実施事項

1. 4園共通

【新型コロナウイルス感染症対策】

新型コロナウイルス感染症の世界的な流行により、感染拡大防止のため、昨年度から年度をまたぎ、各園それぞれ2度のかつてない長期間の臨時休園をすることとなった（上野：令和2年2月29日～6月22日、12月26日～再開園日未定、多摩：3月28日～6月3日、12月26日～再開園日未定、葛西：2月29日～6月22日、12月26日～再開園日未定、井の頭：3月28日～6月1日、12月26日～再開園日未定）。

6月の再開園にあたり、混雑が予想される上野と屋内施設である葛西では事前予約整理券システムを導入し、入場制限を実施した。多摩についても秋の繁忙期の土日祝日について、同様に入場制限を実施した。また、感染防止のために入園者に守っていただく新たなルールを定めた「新しい動物園（水族園）の楽しみ方」を各園で作成し、動物の足跡を利用したソーシャルディスタンスの表示など、わかりやすい表現で入園者に伝えた。

職員に感染者が発生した場合、周囲の職員等も濃厚接触者として出勤停止になる可能性があるため、特に業務を停止することができない各園の飼育展示係においては、飼育班を2チームに分けた上で交代制勤務や執務室の分散などを実施し、感染者が発生した場合においても飼育作業を継続して実施できる体制を整備した。

【動物の飼育・展示】

適正な動物飼育と魅力的な展示の充実に向け、都立動物園・水族園4園間での調整を図りつつ飼育展示業務を着実に実施した。また、高度な飼育繁殖技術の継承・発展を目指して、各園で教育普及・飼育展示研究会を定期的で開催した。従来より国内外の会議・学会・研究会等へも職員を積極的に派遣していたが、今年度は新型コロナウイルス感染症の流行により、多くの会議等が開催中止となった。しかし、可能なものについてはリモートにより出席し、各方面の専門家との人的・技術交流により、最新の知識や技術の向上に努めた。

世界動物園水族館協会（WAZA）において評価体制の整備の動きがあるなど、世界的に注目が高まっている動物福祉について、体制を整備すべく教育展示会議等において検討の上、新たに「動物飼育展示に関する倫理・福祉ポリシー」を策定した。

【野生生物の保全】

野生生物保全センターを中心に、各園で希少種等の保全活動を推進しているが、上野で初繁殖となるアジアゾウのほか、キリンやチーター、オランウータン、レッサーパンダ、オウサマペンギンなどの多くの人気のある動物の繁殖が相次ぎ、4園でブーストック種及び保全対象種のうち、33種の繁殖に成功した。

「第二次ブーストック計画」対象種124種については、飼育繁殖、保全、教育普及等の取り組みを一層推進し、その進捗状況に関しての評価検証を行った。その結果、今年度は対象種のうち74.6%で飼育繁殖の計画に沿って取り組みを進めるなど、着実に計画を推進した。

平成30年度に制定された「認定希少種保全動植物園等」について、都立動物園・水族園ではかねてから希少種の保護増殖についての取り組みを積極的に行っており、4園すべてが認定を受けるべく申請書を提出していたが、葛西については1月13日付で、また井の頭についても3月29日付で認

定を受けることができた。上野及び多摩については対象となる種が多いこともあり、年度末時点では認定を受けるに至っていないが、次年度には認定を受けられる見込みであり、環境省が推進している希少野生動物の保護増殖事業に一層の協力を行っている。

【教育普及】

4園の連携を一層強化し、動物園・水族園の役割のひとつである社会教育機能を充実させるために、教育普及センターを中心に、多様な媒体を活用し、様々なプログラムを実施し、野生生物や、野生生物が置かれた環境等についての普及啓発を行っている。

4園ともに、新型コロナウイルス感染症の影響でイベント等の対面での開催は休止又は中止を余儀なくされたが、TwitterやYouTubeなどのソーシャルメディアやオンライン会議ツールを活用し、臨時休園期間中も含め、様々な情報発信や教育普及プログラムを実施した。

年度末には、パソコンやスマートフォン、タブレット端末などにより自宅からでも園内の見どころや生き物の観察ができる新たなウェブコンテンツ「東京Zoovie Maps & Tours」を、都立動物園・水族園公式サイト「東京ズーネット」にて公開した。同コンテンツでは、高画質のVR（バーチャルリアリティ）映像による園内バーチャルツアーや、生態や生息地について学べる生き物図鑑、動物園・水族園ならではの様々な動画（Zoo Movie=Zoovie）を多数提供しており、日本や世界の生き物について楽しみながら学ぶことができる。

また、学校教育との連携を強化するために、来園ができない時期においても授業に動物園・水族園を活用してもらうため「学校の授業に活かせる動画集」を作成し、YouTubeで公開した。さらに中学生・高校生向けに、動物園・水族館の歴史や、現在行っている業務や役割を知ってもらうとともに、生き物の観察法等をアドバイスする冊子「中学生・高校生のための動物園・水族園活用ガイド」を制作した。

学校が必要とする支援に対し知識や技術を紹介する、東京学校支援機構のマッチングサービス「ティープロサポーターバンク」へ登録し、小学校などとのオンライン授業等も実施した。

【利用者サービス】

利用者の多様なニーズにきめ細かく対応するため、入場券の手売窓口で行っていたキャッシュレスの対応を拡充し、自動券売機でのクレジットカード決済を10月～12月に順次各園に導入した。さらに自動券売機における電子マネー決済および、多摩・葛西の手売窓口におけるQRコード決済についても導入準備を完了し、再開園後に導入する予定である。

5G等の先端技術を活用した新たなサービスについて、東京都からの委託により令和3年度に実施する予定の実証実験について、実施計画案を検討・策定した。またこれとは別にKDDI株式会社と5G等を活用した事業の実施に関する基本協定を締結し、上野動物園内の混雑状況をホームページ上で知らせる「上野動物園混雑マップ」の導入準備を進めた。こちらも再開園後に導入予定である。

前年度に実施した若年層カップルを対象とした満足度調査の結果についてサービス向上委員会において検討し、当該利用者層に向けた新たなサービスとして、Instagramによる情報発信を4園で開始した。

【施設管理や危機管理体制の整備による安全・安心の確保】

テレワークや交代制勤務の導入、オンライン会議ツールによる日々の対策会議など、園の事業継続に支障がないよう各園での感染防止策に努めた。また、園内クラスターが発生した場合を想定したコロナ対策事業継続訓練を実施した。

施設管理については、日常の巡回点検や定期的な樹木点検等により、不具合を早期に発見し、迅速に対応することで園内の安全で快適な環境を確保した。台風、集中豪雨、大雪等の自然災害に対しては、気象災害対策計画や雪害対策計画に基づき、迅速に緊急点検を実施し、不具合箇所や落枝等の早期発見・対応により、入園者への影響を未然に防いだ。

11月に維持管理工事受注業者の作業員が動物舎のケージ上から転落するという重大事故が発生した。これを受け、維持管理作業については、標準仕様書への安全対策に関する内容の追記や、「安全対策10ヶ条」の受注者への周知徹底等を定め、「維持管理作業の安全対策の強化について（通知）」として職員に通知を行うことで、さらなる安全意識向上を図った。

また、前年度に多摩動物公園インドサイ舎において発生した職員死亡事故を受け、動物事故再発防止対策を策定した。対策では、特定動物等のより安全な管理のためのリスクアセスメントを踏まえた安全作業マニュアルの作成や、動物舎へのモニターカメラや転倒時通報機能を有したスマートウォッチの導入、職員同士が情報共有を図るためのミーティングの実施などにより、ソフト・ハード両面から事故防止の徹底を図っている。またヒューマンエラーに関する研修を実施することで、誰にでも起こりうる事例について、その発生をできる限り抑制するための個人や組織の対応策について学び、事故防止を徹底した。

情報セキュリティ対策については、サイバーセキュリティ脆弱性診断、保有する情報処理システム等のリスク評価を行った。また、メールの誤送信抑止対策として、メール送信時に宛先確認画面を表示する機能をOutlookに組み込み、全職員への注意喚起を行った。

2. 恩賜上野動物園

【動物の飼育・展示】

令和2年9月にジャイアントパンダの新飼育施設「パンダのもり」が西園にオープンした。オスの「リーリー」とメスの「シンシン」の2頭を東園から西園に移動し展示したほか、レッサーパンダやキジ類も新施設で公開を開始した。「シャンシャン」(メス)は順調に成長し、6月12日に3歳の誕生日を迎えた。また、「シャンシャン」の返還期限は令和3年12月31日に延期された。

アジアゾウ「ウタイ」(メス)が、10月31日にオスの子ゾウを出産した。上野動物園では初めての繁殖事例となった。子ゾウは「アルン」と命名され、順調に生育している。8月24日に「アティ」(オス)が結核で、3月9日には「ダヤー」(メス)[死因は病理検査中]が死亡し、3月末時点でのアジアゾウの飼育頭数は3頭(オス1メス2)となった。

11月24日にスマトラトラの「ミンピ」(メス)が野毛山動物園から来園した。当園で飼育しているオスの「ブラン」と新たなペアづくりを推進することで、スマトラトラの繁殖に取り組んでいく。

オカピの「バカーリ」(オス)が11月9日によこはま動物園ズーラシアへ移動し、11月30日には金沢動物園から「トト」(オス)が来園した。

3月23日にクロキツネザルの「マム」(メス)が1頭の子(メス)を出産した。

「子ども動物園すてっぷ」で飼育していた見島牛の「初春(はつはる)」(オス)が夏ごろから体調がすぐれなくなり、3月22日に心不全で死亡した。

【野生生物の保全】

当園のライチョウのペアが産んだ13卵のうち、2卵を中央アルプスでの野生復帰試験に提供した。この試験は、4園館(上野動物園、大田市山岳博物館、いしかわ動物園、那須どうぶつ王国)の飼育下ペアが産んだ計8卵を中央アルプスに生息する単独メスに抱卵させて孵化・育成させる試みであった。5羽の孵化には成功したものの、巣の近くを通過したニホンザルの群れの影響で、この5羽と孵化直前の1卵が放棄され、死亡しているのが確認され、巣立ちにまでは至らなかった。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、当園での孵化・育雛は実施しなかったが、有精卵3卵を那須どうぶつ王国に輸送し、うち1卵は人工孵化し、成育した。ライチョウに関する共同研究は、日本獣医生命科学大学、中部大学、岐阜大学とそれぞれ継続して実施した。

ルリカケスは、11月22日に1ペアを平川動物公園へ移動した。2月から3月にかけて、採集や保護により、奄美大島から新たな繁殖用個体として計6羽の雛を受け入れた。

アカガシラカラスバトは、3月末日現在、25羽を飼育し、5ペアで繁殖に取り組んでいる。9月に急性心不全により死亡した個体は、年齢が19歳以上で、飼育下最高記録であった。飼料に関する共同研究を日本獣医生命科学大学と継続して実施した。

イボイモリは、令和2年3月の卵が4月1日より孵化開始。また4月にも40卵を産卵。8月までに全個体が上陸したが、上陸後の給餌がうまくいかず、現在は5頭を育成中である。3月末日現在、徳之島由来の個体を計57頭飼育している。

ミヤコカナヘビは、平成29年10月に日本動物園水族館協会を通じて繁殖用個体14頭を導入した。平成30年6月に孵化を確認してから順調に繁殖を継続している。令和3年3月には飼育園館拡充のため、野毛山動物園と日立市かみね動物園に各10頭の移動を実施した。3月末日現在で132頭を飼育している。

小笠原産陸産貝類であるアナカタマイマイの生息域外保全の取り組みは順調で、令和2年3月ま

で必要数を採卵したため、今年度は繁殖制限のため全個体を個別飼育とした。3月に葛西臨海水族園に展示用として30個体を移動し、3月末時点での飼育数は139個体となっている。

【教育普及】

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、人を集める形での教育普及活動（子ども動物園及び動物解説員による学習プログラムや園内の各種イベント、ガイドツアーや団体向けの教材の貸し出し、ボランティア活動等）の実施は見合わせたが、新しい教育普及活動の形を見出すべく、様々な試行を行った。

臨時休園中の6月にはジャイアントパンダ「シャンシャン」の3歳の誕生日イベントをオンラインで開催した。当園ウェブサイトにてシャンシャンの成長を振り返るコンテンツや動画の掲載、壁紙のプレゼント等を行ったほか、Twitterでぬりえによるパンダアクションへの参加を呼び掛けたところ、3日間で527件の投稿があった。

6月23日に再開園した後も園内でのイベント等の実施は見合わせ、「うへのZOOスクール」はオンラインで8月に実施した。全国から多数の参加申し込みがあり、参加後のアンケートではプログラムを評価する声が高かった。

秋以降は園内におけるQRコードを活用したセルフ版のクイズラリー「クイズで発見！園内セルフ観察版」や、人数や時間を制限した屋外でのイベント（ビオレの手洗い教室）等を段階的に試行し、安全なイベント開催方法についても検討した。

学習プログラムについては、9月から動物解説員による出張授業とオンライン授業の受付を開始した。職場訪問と学芸員実習についてもオンラインによるプログラムを新たに作成し、試行を重ねた。その成果は令和3年度の学習プログラムに活用されている。

「パンダのもり」のオープン時、及び10月のアジアゾウの子の初公開時は、プレス発表及び取材対応を実施した。いずれも多くのマスコミが来園し、様々な媒体で紹介された。アジアゾウの子の命名は、インターネット投票と園内設置の投票箱への投票とを併用して行い、2万票以上の投票により「アルン」に決定した。

12月以降、再度、臨時休園となったが、園全体でTwitter及びウェブサイトにおける情報発信に取り組み、園長をはじめとする管理職によるツイート「#臨時休園中は管理職もツイートに参戦」や毎週日曜の「#シャンデーウォッチング」には、多くの「いいね」がついた。

平成31年3月28日から開催していた両生爬虫類館の特設展示「ハラペコロジー—なにを食べる？どう食べる？」は、12月まで会期を延長したが、特設展会場閉鎖が解かれず、再オープンすることなく終了し、次期特設展の準備を進めている。

アウトリーチ活動は、国立国会図書館国際子ども図書館と江東区の中学校の2件のみ職員を派遣し、それ以外はオンラインでの対応となった。

【利用者サービス】

6月23日の再開園にあたり、来園時の公共交通機関及び園内の混雑緩和、新型コロナウイルス感染拡大防止、並びに飼育動物の安全確保のため、整理券予約システムを導入して1日の入園者数を制限することにより、入園者と動物園にとって安心・安全な環境を整えた。

手指消毒液の設置、動物園らしくジャイアントパンダの足跡をあしらったマットを敷いての入園者同士のソーシャルディスタンス確保、券売機等入園者が触れる箇所の定期的な消毒、係員と入園者の直接接触を極力避けるための総合案内所にマイクシステム導入等、感染症対策に万全を期した。

ジャイアントパンダ観覧については、再開園時はパンダ舎内を入園経路として活用し、1日1回のみの観覧、撮影不可と定めることで、最大の懸案事項であった混雑集中や長時間の待ち時間を回避することができた。9月8日には西園に新施設「パンダのもり」がオープンし、東園でシャンシャン、西園でリーリー・シンシンが展示されることになり、観覧誘導対応が東園・西園のダブルオペレーションとなった。東園のシャンシャン観覧については、入園者からの複数観覧および撮影再開の要望に応え二列観覧に変更し、前列についてはそれまでの運用どおり入園後そのまま観覧、後列については再度観覧希望の方や撮影希望の方の列に変更した。入園者の満足度が上がった反面、並べば何度でも観覧、撮影できるため、後列の待ち時間が長くなるなどの課題が生じた。西園のパンダのもり観覧については、オープン日には入園者ほぼ全員がそのまま現地に向かったことで西園内に長蛇の列が発生したが、エリア内に蛇行列を新たに設けるなど観覧誘導方法を工夫し、混雑解消に繋げることができた。以降は入口～出口の流れを作りながら大きな混乱なく観覧いただいている。

入場券のキャッシュレス決済については、当初有人窓口のみでの取り扱いであったが、11月4日より券売機でもクレジットカード決済が利用可能となり、入園者の利便性が高まった。令和3年度に電子マネー決済の追加導入も予定されており、更なる入園者サービスの向上が見込まれる。

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を見据え、増加が見込まれる海外からの入園者の方々に、より便利に園内をご利用いただくため、令和2年1月15日より期間限定で「Tokyo Zoo Welcome Center」を開設していたが、新型コロナウイルスの感染拡大、大会開催の1年延期に伴い、1日2回実施していた英語・中国語によるガイドツアーを休止するなど、運営規模の縮小を余儀なくされた。そのような状況においても、周辺観光案内についての豊富な情報やご案内対応は入園者への有益なサービスとして活用され、利用された入園者より大変喜ばれている。

収益事業では、長期に渡る休園期間の影響を受けて売上が大幅に減少し、厳しい経営状況となった。4月から6月の休園期間は、通信販売サイト「Tokyo Zoo Shop」を積極的に活用し、売上の確保に努めた。6月の再開園後も、店内の混雑回避及び遠方からの来園が難しいことを考え、シャンシャン3歳記念商品や「Thank you シャンシャン」商品を通信販売と併用して販売するなど、顧客ニーズに配慮した展開を実施した。店舗では、飛沫感染対策シートの設置、さるやまキッチン2階の換気のため、排煙窓への網戸取り付けなどの対策を徹底した。さらに、店舗導線の一方通行化、座席数の減少、利用列のソーシャルディスタンスを確保するための足あとシート設置等により、安全安心を第一にした運営を心掛けた。12月の休園以降は、賞味期限が近づいた商品を割引販売することでフードロス対策をした他、メディアへの露出、外部への出店や委託販売を実施するなど、収益確保のために販路拡大を積極的に行った。また、HACCPの考え方を取り入れた衛生管理への移行を前提に、東京都食品自主管理認証制度の取得を園内すべての飲食販売店で完了した。

【施設管理や危機管理体制の整備による安全・安心の確保】

危機管理対策では、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、「新しい動物園の楽しみ方」を策定し、入園者にお知らせすると共に、職員向けの対策として、出勤体制の見直し（チーム分け、執務室分散等）、時差出勤制度の活用、毎日「新型コロナウイルス対策会議」を開催する等、職員間の接触の回避及び連絡体制の強化を図った。また、新型コロナウイルス感染症のクラスター発生を想定した初動対応及び事業継続訓練とZoomを用いた通信訓練を実施した。

園内維持管理では、省エネ対策として園内施設のLED化・空調設備及び給排水設備のインバーター化の更新を推進するとともに、高病原性鳥インフルエンザ対策の一つとして西園に車両消毒

装置を設置した。また園内樹木の枝処理や剪定作業、園路の不陸部分の舗装、ベンチの更新など、利用者の快適性の向上と安全確保に努めた。また、施設の維持管理一つの取り組みとして、猛禽舎（ハゲワシエリア）の補修整備を行った。

3. 多摩動物公園

【動物の飼育・展示】

希少野生動物の飼育展示・繁殖に努め、33年連続でのニホンコウノトリが孵化したのを始め、オランウータン、レッサーパンダ、キリン等、様々な種において繁殖に成功した。中でも、1年間に3頭が誕生したキリンや、国内の動物園と連携した結果として、2年ぶりに実現したチーターの繁殖により、園内の魅力向上につながった。同様の取り組みとして、14年ぶりに海外からサーバルが導入されたほか、金沢動物園とのインドサイの相互ブリーディングローンにより、新たなペア形成による繁殖への取り組みも始まった。

飼育関連では、キリン舎建て替え工事が本格化する一方で、アジアゾウ舎とライオンバスステーションが完成し、オープンに向けた動物の馴致訓練と、運行再開を目指したライオンバスの運行訓練が始まった。

また、3月には札幌市円山動物園と、動物（ゾウ）に関する教育研究活動の拡充に向けた連携・協働に関する協定を締結した。この協定のもと、ゾウの「準間接飼育方法」を取り入れ、「種の保存」を目的とした繁殖への取り組みのほか、「調査・研究」や「教育・環境教育」の事業について、連携・協働しながら進めていくこととなる。

昆虫園では、新型コロナウイルス感染症の影響により、年間を通じてグローワームの展示ができない状態であったが、これまでどおりの水準で飼育と繁殖を継続している。

【野生生物の保全】

生息域内、域外の両面において保全活動の取り組みを実施している。トキについては、多摩では初めて人の手を加えない自然孵化に成功し、生育した4羽を佐渡トキ保護センターへ搬出した。アカガシラカラスバトでは、平成30年以降18羽が自然繁殖で育っており、飼育繁殖技術が確立されつつある。オガサワラシジミでは、園内施設を用いての累代繁殖に成功してきたが、8月に域外保全個体群が途絶し、現在関係機関とその原因について調査している。また、小笠原で生息状況が急激に悪化している小笠原産陸産貝類であるアナカタマイマイの生息域外保全の取り組みを始め、順調に繁殖している。

生物工学分野では、EIA法によるホルモン測定を実施し、ユキヒョウやツシマヤマネコ等の繁殖生理の解明に役立っている。また、PCR法を用いた鳥類・哺乳類の性判別を実施している。ミトコンドリアDNA解析では、新たな生息を確認した地点を含むメダカ地域個体群解析、小笠原で採取したアカガシラカラスバトのサンプルからハプロタイプ解析、動物園内の野生および飼育下のゲンジボタル交雑調査等を行った。これらは保全指針を決める一助となっている。

普及啓発分野では、人と動物の共存について考える企画「すすめ！地球生命隊ーともに生きる未来へー」をウォッチングセンター1階で常設展示し、東京動物園協会が取り組む保全活動を入園者に広く伝えている。

例年実施している野生生物保全センター講演会は、新型コロナウイルス感染症対策のためにオンラインで開催し、「野生動物を救護する～動物園にできること」では240名の参加があった。同様に、例年実施している取り組みの一部、例えば、トキでの佐渡トキ保護センターの定期健康診断への職員派遣等による保護増殖事業への協力、ニホンコウノトリでのIPPM-OWS（コウノトリの個体群管理に関する機関・施設間パネル）の計画に従った放鳥個体の遺伝的多様性を維持するための卵の輸送、小笠原における野生生物保全について、島民および一般市民への普及啓発を目的とした、地

元と連携した島での講演会なども休止した。

【教育普及】

今年度の教育普及活動は、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受け、様々な制約の中で行った。例年実施してきた動物解説員のガイドツアーや、飼育担当者によるキーパーズトーク、モルモットとのふれあいなど、入園者向けの教育プログラムは感染症対策のため休止となった。そのほか、ボランティアガイドや大学生による「おえかきっず」、NPO法人樹木・環境ネットワーク協会との共催プログラム等も実施を見合わせた。集客イベントができない中でも実施可能な教育普及活動を模索し、特に以下の3点に注力した。

①Twitter、YouTube、公式HPを活用した情報発信

年度初め～6月3日までの臨時休園期間中は、公式Twitterでの情報発信を積極的に行った。休園中の動物たちのようすを動画や写真で紹介するほか、動物に関するクイズを出題した。公式HPでは、自宅で楽しめる塗り絵や工作のアイデアを公開した。年間を通して、学校の授業で役立つ動画の制作に取り組み、東京ZooNet YouTubeチャンネルにて順次公開した。5月の「生物多様性の日」、2月の「世界湿地の日」は都立4園連携でTwitterによる情報発信を行った。

②オンラインプログラムの実施

対面プログラムの代替として、ウェブ会議システムZoomを利用したオンラインプログラム「動物ふしぎ発見教室」を開催した。同じくZoomを利用したキリンや干支についてのオンライン講演会も開催した。来園イベントには参加が難しい遠隔地からの参加が可能となるなどのメリットもあった。

③セルフガイド型プログラムの開発

入園者が園内を周りながら動物について学べるプログラムの提供を試みた。園内複数箇所の動物舎にクイズパネルを設置したクイズラリー企画では、感染症対策としてパネルに非接触で読み取れるQRコードを掲載し、解答や解説をスマートフォンで見られるようにした。干支展に合わせて作成した「TamaZooウシ科図鑑」は、園内のウシ科動物を観察して自分で書き込める冊子形式にした。

ほかにも、感染症対策を取りながらプログラムを実施した。ハンズオンを一切行わないパネル展として、「世界ゾウの日パネル展」、「カブトムシ展」、「干支展『モ〜っと知りたいウシのせかい』」などを開催した。干支展は、開始から約2週間で臨時休園となってしまい、ほとんど見てもらうことができなくなった。そのため、公式HPでVR画像を公開した。開園以来毎年実施している子供写生画コンクールは、感染症対策として郵送受付を追加し、公式HP上の動物動画等をみて自宅で描いた絵を応募してもらうなど、実施方法を一部変更して開催した。

園内の整備工事が着々と進んでおり、ライオンバス発着所および新アジアゾウ舎の解説サインの内容やデザインの検討を手掛けた。

【利用者サービスの提供】

新型コロナウイルス感染拡大防止に伴う臨時休園でスタートした年度であったが、再開園にあたっては、マスク着用や手指の消毒、ソーシャルディスタンスの確保を促すなど、「新しい動物園の楽しみ方」を実践し、感染防止対策に取り組んだほか、秋の繁忙期における入園整理券事前予約システムの導入により入園者の集中による「密」対策を行った。

リニューアルしたライオンカフェでは、ライオンバスを利用するファミリー層をメインターゲット

トに設定し、誰にとっても分かりやすく、野外での食べ歩きができ、スピーディーに提供できることをコンセプトに、ハンバーガーを基軸とした新たなメニュー展開を企画、開発した。

そのほか各フード店舗では感染症対策で削減した座席数を補うため、屋外で使えるレジャーシートを貸し出しサービスを開始するなど、新たな試みも実施した。

令和3年度から運行再開予定のライオンバスについては、これまで以上に展示や観覧を楽しんでいただける施設を目指し、再開準備を行った。

【施設管理や危機管理体制の整備による安全・安心の確保】

安全に園内を利用できるよう、園路の不陸調整や排水側溝・法面等の補修を行った。また倒木や落枝対策として、日々の巡回点検や樹木診断に基づき、危険なものは伐採・剪定処理や枯れ枝除去を行い、安全を確保した。

快適性向上のため、トイレの便座を洋式・温水化することや利用状況を一目でわかるデジタル表示設備を設置した。また旧類人猿舎やカンガルー前広場等のベンチ・野外卓を更新し、車いすに対応できるものとした。

園内環境や動物飼育環境を支える基盤となる設備については、不具合発生時には迅速に修理・復旧を行っているが、更に不具合を未然に防ぐ予防保全をおこない、設備故障の影響を最小限に留めた。

省エネルギー化の対策としては、昆虫園本館やマレーバク舎などの照明器具のLED化や、省エネルギー性能の高い設備器具に更新することで、環境負荷の削減につなげた。

園内の魅力向上策として、園内に自生するヤマユリやキンランの保護を行ったことや、アフリカ園入口に、アフリカの草原をイメージした植栽をおこない、動物園らしい景観や自然豊かな園地を発信した。

危機管理対策としては、新型コロナウイルス感染症の影響に伴い当初計画を変更し、災害発生時初動対応訓練の代替として、職員のクラスター発生を想定した机上訓練を実施したほか、初動対応計画の改訂と、この内容に基づく災害時の行動をわかりやすくまとめたハンドブック「東京ZOO防災」の作成を行った。

4. 葛西臨海水族園

【動物の飼育・展示】

大洋の航海者エリアの「大洋の航海者マグロ」水槽において、6月にクロマグロの1歳魚を35尾追加し、安定した群れ展示を作り上げ、8月には6年ぶりとなるクロマグロの産卵が確認された。本水槽では、6月6日に外洋性板鰓類のヨシキリザメ2尾を展示し、1尾は9月23日に、もう一尾は10月20日（飼育期間137日間）に死亡した。また、8月12日には、本水槽の擬岩側にアカシュモクザメ6尾を試験展示している。なお、令和元年11月15日より展示を開始した板鰓類のイタチザメは、8月26日に死亡したが、飼育期間は285日間となり当園における最長記録となった。

また、平成30年に実施した南極調査で採集した甲殻類パラセロリス・ポリタを、6月に世界の海エリアの「北極・南極の海」コーナー「南極2」水槽において初展示をした。

8月22日および9月12日にオウサマペンギンのヒナが生まれたが、当園で同じ年にヒナが2羽生まれるのは初めてのことであり、またオウサマペンギンの繁殖は、昨年につき4度目となった。なお、9月12日生まれのヒナは10月24日に死亡したが、8月22日生まれのヒナは順調に生育し、「クルル」と命名し11月12日から「ペンギンの生態」において一般公開している。

令和2年2月25日に、それまで展示していた雌のメンダコが死亡したが、その体内から取り出した卵が8月4日にふ化した。そのふ化した稚仔は10日間生存したが、「深海トピック水槽」において高感度カメラで撮影し、その様子をリアルタイムモニターによって展示した。メンダコのふ化は当園では4例目、世界では5例目となるが、このふ化の瞬間の撮影に世界で初めて成功し、ズーネットによって一般公開をした。

また、12月から翌年2月にかけて、「渚の生物」水槽を閉鎖し、アクリルのゆがみの補修および2019年の台風の影響により一部落下していた天井板の改修を行っている。

【野生生物の保全】

保全活動として、4園共同でアカハライモリやミナミメダカの調査を継続的に行っている。アカハライモリの活動では、6月、9月、11月にフィールド調査を実施し、新たにタグリーダーアンテナを用いた陸上個体探索を行った。また、地元小学校への体験授業を実施したほか、昨年度より地元住民への普及啓発を踏まえて地元中学校の生物系クラブを対象に観察会を実施している。

トビハゼ調査では、当園が事務局となり、東京湾内で調査研究を行っている8施設による「トビハゼ保全施設連絡会」を開催予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大により休止した。また、6月と10月にフィールド調査を実施し、巣穴のカウントや稚魚の出現状況を調査した。域外保全では、9月に2回、展示水槽内においてトビハゼのふ化を確認している。

2月には身近な水辺保全講演会をオンラインで開催し、トビハゼ保全活動について報告した。

東京産両生類の保全活動では、アズマヒキガエル、ツチガエル、アカハライモリ、シュレーゲルアオガエルの産卵に成功している。卵の育成については4園で構成する東京産両生類ワーキンググループの繁殖計画に従い、計画的な育成をしている。

ゼニタナゴの保全では、日本動物園水族館協会の種保存事業に協力し、淡水二枚貝を用いて400尾以上の繁殖に成功した。

また、環境省がすすめるウミガラス保護増殖委員会に委員として参加して域内保全に協力し、小笠原希少陸産貝類の保全では、環境省や東邦大学と協力し、寄生虫の感染試験や巽島での野生復帰などに協力した。

なお、当園は、環境省から2021年1月13日付で「認定希少種保全動植物園等」制度における「希少種保全動植物園等」に認定された。本制度は、希少種の保護や増殖について一定の基準を満たす動植物園等を環境大臣が認定する制度であり、当園の認定対象種は、「国内希少野生動植物種」が4種（エトピリカ、コウノトリ、タンチョウ、カタマイマイ）、「国際希少野生動植物種」が1種（フンボルトペンギン）である（認定日時点）。

小笠原諸島で例年行っていたユウゼン調査は、新型コロナウイルス感染症の影響により小笠原への渡航ができなかったため、現地ダイビングショップに調査の一部を委託してデータ収集を行った。

【教育普及】

コロナ禍による長期間の臨時休園、また、その再開後も、開園中の対面で行う教育活動が制限されたため、大きく計画を変更し、TwitterやYouTubeなどのSNSやオンライン会議システムのZoomなどを利用し、オンライン中心で教育活動を行った。

休園中は自宅で生き物の魅力を楽しんでもらえるように「おうちでかさりん」と題して、ツイート回数を増やし、積極的に情報発信を行った。再開後も引き続き、後述するYouTubeでの情報発信と連動させるなどの工夫をし、多様な情報発信を行った。

YouTubeを使った配信では、より多くの人を楽しみながら生き物の魅力を知ってもらえるように、夏の夜間開園や開園記念日イベントにあわせた水槽前からのライブ中継や職員によるトーク、お正月や深海生物をテーマにしたクイズ大会などを実施し、配信中はチャットで視聴者との双方向のやり取りも行った。また2月からは、土日祝に各水槽からのライブ中継を行い、職員による飛び入りガイドもあわせて行った。また、ライブ配信とともに学校教員向けの「海のかくれんぼ」など教科書の単元に沿った授業に役立つ動画や、学校での水辺の生き物飼育に役立つ「飼い方」動画を製作し、配信した。

子供向けの体験型プログラムはZoomを使用し、小学3・4年向けの「海の遊びや」を合計3回、幼児向けと小学5・6年向けは各1回ずつ、リモートではあるが参加者に鮮魚を用意してもらったり、ペンギンの羽などの教材を園から送ったり、より体験的になる工夫をして実施した。また高校生・大学生向けの「海の学び舎」は水族園での研究をテーマに、同様にZoomを利用して合計3回実施し、北海道から沖縄まで全国各地から参加があった。また、夏休みには個別に自由研究などの生き物調べの相談にのる「海のいきもの調べ相談」を実施した。

学校との連携は、休園や団体の受け入れ休止により、例年のような受け入れができなかったが、前述の教員向けの動画の配信、また遠隔での団体プログラムを合計6件、大学生向けの遠隔授業などの特別プログラムを合計3件実施した。また博物館実習や職場体験は、感染防止対策をしたうえで例年どおり受け入れた。

一般向けの講演会は海鳥の保全をテーマとした「つどえ、オロロ〜ン！」や水辺の保全講演会など、Zoomを使用し合計3回実施した。「つどえ、オロロ〜ン！」では連携協定を結んでいる羽幌町との共催により、オンラインで現地と結びながら開催し、リモートのメリットを生かした内容となった。これらの講演会は、開催後もアーカイブとしてYouTubeで配信し、より多くの人に見ていただけるようにした。

サメやエイとのふれあい展示であった「タッチンフィーリン」の閉鎖に伴い、新たな展示「イキモノマヂカ」を企画・制作した。直接的なふれあい活動はないが、より生き物を間近に感じられる工夫をした展示であり、生き物の摂餌行動を間近で観察したり、目に見えない小さなものを大型ス

クリーンに映してみたりといった体験の場を設けている。令和3年度のオープン後は、本展示会場にて教育プログラム活動を開始する予定である。

移動水族館事業は、感染防止対策として、ふれあいや標本等教材を使ったプログラムは休止し、うみくる号の水槽等の定期的な消毒を行いながら実施した。障がいなどのために来園することが難しい特別支援学校や社会福祉施設の利用者を対象に合計22回を実施した。

【利用者サービス】

夏季における園内サービスとして、観覧通路・無料休憩所において、遮熱・遮光を目的としたつる性植物（フウセンカズラ）による緑陰の創出を継続したほか、観覧通路・無料休憩所における扇風機による送風（夏季空調温度抑制対策による冷房補助対策）、入園者への輻射熱対策として間欠式散水（空の広場）やミスト扇風機の導入（水の広場売店周辺、売札所）、氷柱や風鈴の設置（ゲート棟）など涼感の演出による入園者向けサービスを継続実施した。

キャッシュレス化への対応として、入場券の自動券売機と窓口発券機でクレジットカードによる販売を10月から開始した。またQRコード決済用の機材も設置した。

また、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から休止又は中止せざるを得ない研修もあったが、英会話研修については、オンラインにより継続実施している。

収益部門では、新たにフォトサービスを導入した。また、2回目の緊急事態宣言解除後の臨時休園期間に無料エリアである「水の広場」を開放し（2月8日開始）、売店の営業も含め、公園利用者の便宜を図った。

【施設管理や危機管理体制の整備による安全・安心の確保】

経年劣化による機器故障の補修や配管類の破損修繕などを行うとともに、予防保全として不具合発生前の改修など、約160件の工事、修繕等を実施し、施設停止の影響を最小限に留めた。

園内樹木は、植樹から30余年が経過し育成から成熟の時期を迎えたことにより、樹形を考慮しながら剪定と世代交代を意識した間伐を行い、健全な生育と自然環境の創出、保全を行った。

危機管理対策としては、自衛消防訓練、災害初動や事業継続計画の机上訓練を継続実施した。救命講習会については、感染症拡大による緊急事態宣言期間は開催できなかったことにより、年1回の開催とはなったが（通常年2回）、継続的に実施している。また、令和元年度に締結した新潟市水族館マリニピア日本海と大規模災害相互救援に関する広域連携基本協定においても、継続して連携に努めた。

新型コロナウイルス感染症への対策としては、都のガイドラインに準じた感染症対策の徹底により「対策を行った事業所・店舗」として登録し、また、整理券方式による入園者の入場制限や感染拡大防止対策（検温、手指消毒液の設置・提供、各注意喚起ポスターやマークの設置、対面場所でのアクリル等設置、レストラン入場制限、他）を行い、団体入園の受入れも休止した。

5. 井の頭自然文化園

【動物の飼育・展示】

動物園（本園）では、屋内で展示していたミーアキャットを7月から屋外での展示も開始するとともに、2月には屋内展示室に砂を敷均して植栽を施すなど、飼育環境を改善した。9月11日にマーラのオス1頭が誕生し、入園者の人気を集めた。野鳥の森では、10月にフクロウのメス1羽が来園し、従来から展示していたオスと同居させた。また和鳥舎でも、12月にアオバトのオス1羽が来園したため、従来から展示していたメスと同居させ、今後、繁殖を目指す予定である。一方、2009年から飼育していたホンダタヌキのオスが11月19日に死亡し、一時的に本種の展示が休止している。3月には、イノシシ放飼場について草地を含むエリアに拡張し、土掘り行動を誘発するなど、動物本来の習性を普及啓発できるような整備を進めた。

水生物園（分園）では、今年度も春から夏にかけて両生類や水生昆虫の繁殖に力を入れて取り組んだ。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、水生昆虫も採集のための出張などを見合わせていた関係で、水生物館での累代飼育により、辛うじて展示の維持につなげている種もある。

また、昨年度後半にこれらを展示する水生物館の常設展示の小水槽については、水槽のリニューアル工事を行った。これは従来から上下2段になっている展示コーナーが背の低い子供には見難い構造であったため、休園期間中に観覧通路側に踏み台を設置する工事を行った。

水鳥類については、例年通りいくつかの水鳥で産卵がみられたものの、抱卵中に卵が無くなっている事例が多く、ヘビ（アオダイショウ）による食害が疑われた。休園措置により園内に入園者がいない期間が長く続いたことや、七井門トイレ工事の付帯工事の関係で水辺の小径側に入園者が入れない場所が出来ていたことから、ヘビが容易に鳥のケージに到達できる死角があったことが考えられ、今後、ケージの周囲でヘビの侵入の足掛かりとなる低木の伸びた枝や、茂った草の整理など対策が必要である。

また、秋から冬にかけては、国内で鳥インフルエンザの発生がみられ、12月には千葉県など近隣県の養鶏場でも被害が発生したため、弁天池側のハクチョウなど開放型の展示にいた水鳥類などをサギ舎やオシドリ舎など屋根のあるケージへ移動する収容措置を速やかに実施した。

なお、当園は環境省から3月29日付で「認定希少種保全動物園等」制度における「希少種保全動物園等」に認定された。

本制度は、希少種の保護や増殖について一定の基準を満たす動物園等を環境大臣が認定する制度であり、当園の認定対象種は16種である（認定日時点）。

【野生生物の保全】

当園は、環境省と（公社）日本動物園水族館協会が共同で進める「ツシマヤマネコの保護増殖事業」に参画し、アムールヤマネコでの人工授精の成功を受け、同事業において「人工繁殖推進施設」と位置付けられている。平成27年から毎年1月を中心にツシマヤマネコの人工授精を実施しているが、未だ妊娠・出産に至っていない。今年度は、同事業において策定した「令和2年－3年ツシマヤマネコ飼育下個体群繁殖計画」に基づき、12月にメス1頭を九十九島動物園（長崎県）から搬入し、同月に人工授精へ供試の後、2月に腹部超音波検査にて妊娠診断を行ったが妊娠に至らず、同月に福岡市動物園へ搬出した。さらに別のメス1頭について、自然発情にあわせて2月に人工授精を実施したが、妊娠は確認できなかった。

また、3月にツシマヤマネコ舎周辺の植栽を対馬の環境を模した植栽（ヒトツダバコ、玄海

ツツジなど) に植え替えて、生息環境を含めた普及啓発ができるように整備を進めた。

アカガシラカラスバトの保護増殖事業では、上野動物園から導入したメス1羽の飼育展示を継続している。東京文化財ウィーク(10月16日～11月30日)にちなみ、動物舎に「のぼり」などを設置するとともに「解説カード」を配布するなどの普及啓発活動を行った。

平成29年度から新たに小笠原諸島父島に生息する陸産貝類(いわゆるカタツムリ)の絶滅危惧種であるカタマイマイの生息域外保全を開始し、平成30年6月に初めて産卵を確認した。

今年度も、37卵が孵化し、うち36個体が生育している(令和2年度は非公開)。

さらに当園は、日本動物園水族館協会と環境省との間で締結した「生物多様性保全の推進に関する基本協定書」に基づくトゲネズミ類の生息域外保全等推進事業に協力し、7月にアマミトゲネズミのオス6頭、メス4頭を受け入れて、飼育を開始した(非公開)。同事業において策定した「令和3年度アマミトゲネズミ移動・繁殖計画」に基づき、3月にメス2頭を埼玉県こども動物自然公園から搬入し、同月に別のメス2頭を宮崎市フェニックス自然動物園へ搬出した。

東京産両生類は、引き続き4園が連携して飼育下繁殖の技術向上と野外採集にできるだけ依存しない展示の維持に努めている。今年度もトウキョウサンショウウオなどいくつかの種で産卵、繁殖がみられたが、今年度は、産み出される卵数の低下や、卵質の悪化などもみられ、得られる有精卵数が非常に少ないものとなった種が出てきている。これには親個体が高齢になってきていることも一因と考えられる。

淡水魚類については、(公社)日本動物園水族館協会が策定した飼育下繁殖計画に基づき、当園では引き続きミヤコタナゴやムサシトミヨを重点に、国内の淡水魚を飼育する水族館らと連携し、保護増殖に取り組んでいる。

また、井の頭池の「かいぼり」により復活したイノカシラフラスコモなど、水草類の保全に向けた取り組みにも着目し、水生生物館での栽培試験を進めている。今後は展示による入園者へのPRも充実できればと思っている。

【教育普及】

新型コロナウイルス感染拡大防止による臨時休園中や開園期間中においても、オンラインによるイベント開催や学校対応、オンラインでの動画の配信などによる普及啓発が中心となった。ボランティア活動は年間を通して休止となったが、入園者対応を伴わない展示の維持管理作業をおこなった。

「いきもの広場」はオープンから8年が経ち、人の利用圧と植生遷移が進んできたため、1年間入園者利用を休止し、環境改善のための大規模な整備をおこなった。

「水辺のいきもの広場」は、東京農工大学との共同で教育プログラムの作成を開始した。

飼育動物や園内の自然を活用した教育プログラムとしては、動物解説員のガイドツアーは休止とし、クイズの掲示による観察誘導や短時間のスポットガイドを実施した。「教員セミナー」、「大学生のためのズーカレッジ」、「身近ないきもの探検」、「文化園いきものクラブ」は休止した。

学校団体からの実習、校外学習、出張授業については、その他、日本獣医生命科学大学や武蔵野美術大学をはじめとして、様々な学校・団体の実習等については、学校側との協議の上、感染予防対策を十分に整えられるもののみ実施した(7月:武蔵野美術大学「生涯学習論」、10月:三鷹市立第四小学校「職業調べ」、12月:日本獣医生命科学大学「野生動物学」、1月:武蔵野市立井之

頭小学校「リスの巣箱づくり」等）。

野生生物の保全に関する普及啓発については、ここ数年毎年実施しているイベント型の「ヤマネコ祭」は休止し、資料館にてヤマネコ保全の普及啓発のためのパネル展を10月から開催した。

また、自宅で楽しみながらツシマヤマネコのことを知ってもらう動画「ヤマネコになってメッセージを送ろう！」を3月に公開した。

都立動物園・水族園合同企画としては、2月に身近な水辺の生物の保全についての講演会「水辺の植物・動物・人のつながりを考える」をオンラインで開催した。

子供たちに楽しみながら動物について知ってもらう工夫として、「動物園怪談画劇」など、オリジナリティの高いスタンプラリーを毎年開催してきたが、参加者の密集を避けられないため休止とした。資料館での企画展は、バルーンアートの展示が延期となったため、川端遥香氏の作品展示「Art and the Zoo vol. 6 :いと、いと、いきもの—川端遥香刺繍作品展」の会期を延長した。本展示関連のワークショップは休止し、代わりに自宅での作品づくりを楽しんでもらうために刺繍キットを送付した。彫刻園では、コロナ禍に合わせて、困難な時の中での北村西望の制作活動を伝える小企画展「危機をこえて」を6月に開催した。9月に開催した企画展「筋肉礼賛—北村西望と近代塑造の人体標準」では、自宅での作品鑑賞の機会提供のために展示の見どころを紹介する動画を配信した。また、来年度の企画展開催のために助成金を5件申請し、うち2件が認められた。ギャラリートークは、屋外彫刻のスポットガイドとして実施し、館内の作品鑑賞用にはセルフガイドを作成した。

地域との連携では、「三鷹国際交流フェスティバル」は休止、「むさしの環境フェスタ」はオンライン開催となったが、武蔵野市観光機構主催の街中謎解きゲーム「探偵ムサシと動物ずかん」へ動画等の情報提供を9月におこなった。武蔵野市教育委員会主催の文化財講座「動物観察教室」を10月に実施した。三鷹ネットワーク大学主催の干支講座講演会をオンラインで実施した。

その他、6月「ドリームナイト・アット・ザ・ズー」、10月秋の夜間開園「秋の夜長の自然文化園」、2月文化園コンサート「February Concert at the Zoo」は休止した。

【利用者サービス】

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、4月1日から6月1日まで、及び12月26日から3月31日までの長期間に渡り、臨時閉園を余儀なくされた。

6月2日からの再開園にあたっては、東京都による事業者が実施すべき感染防止対策を実施のうえ、「感染防止徹底宣言ステッカー」を取得し、各入園門等に掲示することで都民が安心して利用できる施設であることを広く周知した。

また、「新しい動物園の楽しみ方」を新たに策定し、入園者に感染予防の徹底を呼びかけた。

なお、入園待機列にはソーシャルディスタンスのための目安となるラインテープを貼り、各入園門付近には手指消毒液を設置するなど、感染症対策を強化するとともに、3密（密閉・密集・密接）防止のために学校団体などには、1日の団体受入人数の制限や来園時間が重ならないよう調整した。

さらに、有料貸室である資料館集会室及び童心居においても、施設収容率の50%に人数制限を行うなど、徹底した感染予防に努めた。

園内の売店においても、商品購入のためのレジ待機列には、ソーシャルディスタンスのための目安となるラインテープを貼るとともに、手指消毒液を設置し、感染症対策に努めた。

安全面では、雨後水はけが悪く滑りやすかったアトリエ館周辺園路に砂利を敷き均し、利便性を図るとともに、屋外彫刻の台座も水撥ねがなくなり景観も向上した。

また、水生物園オシドリ舎など飼育舎の塗装を実施し、展示効果を向上させた。

園内の植物の見どころを紹介する「花ごよみ」は、令和2年度よりタイムラプスによる花の動画を合わせて配信を開始した。休園中は、Twitterなどの媒体を活用して、タイムリーに花の見ごろ状況を提供し、動物園の魅力発信に努めた。

【施設管理や危機管理体制の整備による安全・安心の確保】

高木の樹木については年間3回の総点検を実施し、支障枝・腐朽等を早期に発見し処理を行うことで、入園者の安全確保を行っているところであるが、大型化する台風などの自然災害に備えるため、北西側境界の衰退樹、密により倒木が懸念される樹木の大掛かりな伐採を実施した。

施設補修については、老朽化したハビタット人止柵の補修工事、モルモットコーナーのLED照明への交換工事、彫刻園A館の消防設備の補修工事などを実施した。

危機管理対策としては、例年実施していた災害初動対応訓練が実施できなかったため、11月25日に「コロナ対策・事業継続訓練」を実施し、園内で新型コロナウイルス感染症のクラスター（集団感染）が発生したことを想定した机上訓練を実施した。

なお、この訓練においては、総務部とオンライン会議システム（Zoom）で通信し、リアルタイムで情報の共有化と対策の検討を行った。

さらに、3月には初動対応マニュアルの簡易版である「Tokyo Zoo 防災」を新たに制作し、全職員に周知徹底し、有事に備えた。

Ⅱ. 事業実績

〔1〕 飼育・展示事業

1. 展示動物の収集・管理

(1) 動物収集業務

国内外の飼育動物の情報収集に努め、動物交換、贈与、共同繁殖のための動物貸借（BL：ブリーディングローン）等により動物の導入を積極的に行った。

【主な収集動物】

園名	種名	数量	区分	摘要
上野	レッサーパンダ	1	借受	周南市徳山動物園
	レッサーパンダ	1	交換	長野市茶臼山動物園
	オカピ	1	借受	金沢動物園
	オガサワラオオコウモリ	1	預かり	環境省（小笠原自然保護管理事務所）
	スマトラトラ	1	借受	野毛山動物園
多摩	インドサイ	1	借受	金沢動物園
	コアラ	3	借受	東山動物園、平川動物公園
	サーバル	1	交換	スロバキア
	オランウータン	1	借受	釧路市動物園
	トナカイ	1	その他	大島公園との所換（釧路市動物園）
葛西	ヨシキリザメ	2	購入	株式会社エラスモブランチ
	クロマグロ	35	購入	伊豆中央水産株式会社
	アカシュモクザメ	11	購入	池上水産
	スパイニークロミス	4	譲受	伊勢シーパラダイス
	フンボルトペンギン	17	その他	国内3施設より借受・譲受
井の頭	アマミトゲネズミ	10	その他	埼玉県こども動物自然公園（環境省保護増殖事業）
	ツシマヤマネコ	1	その他	九十九島動植物園（環境省保護増殖事業）
	メジロ	1	その他	東京都環境局
	ホンドフクロウ	1	その他	東京都環境局
	アオバト	1	その他	東京都環境局

(2) 動物管理業務

動物台帳の管理を適正に行ったほか、国内外における稀少種血統登録への参画や、約100カ国で1,200以上の動物園水族館等が加盟するSpecies360(旧称:国際種情報システム機構)の会員として、動物情報管理システム(ZIMS)を用いて世界中の園館と動物情報を共有する等、適切な個体群管理に取り組んでいる。

【展示動物飼育数】(令和3年3月31日現在)

園名	類	目	科	種	点	備考
上野	哺乳類	17	57	103	1,092	
	鳥類	20	49	106	515	
	は虫類	4	29	70	278	
	両生類	2	18	40	522	
	魚類	7	7	8	179	
	無脊椎動物	4	5	6	160	
	計	54	165	333	2,746	
多摩	哺乳類	10	28	60	599	
	鳥類	16	26	88	976	
	は虫類	1	4	5	28	
	両生類	2	5	8	99	
	魚類	1	1	5	14	
	無脊椎動物	27	64	126	17,005	昆虫綱シロアリ目・ハチ目の社会性昆虫2科3種14群含む
	計	57	128	292	18,721	
葛西	哺乳類	0	0	0	0	
	鳥類	5	5	9	260	
	は虫類	1	1	3	14	
	両生類	2	6	10	220	
	魚類	25	131	467	8,160	
	無脊椎動物	69	174	445	20,106	
	計	102	317	934	28,760	
井の頭	哺乳類	7	17	32	407	
	鳥類	15	24	64	262	
	は虫類	2	6	9	34	
	両生類	2	8	10	357	
	魚類	7	11	42	1,740	
	無脊椎動物	6	12	15	428	
	計	39	78	172	3,228	
合計					53,455	

2. 飼育展示・調査研究

(1) 日常飼育業務

動物の健康と飼育環境管理を適正に行い繁殖に努めるとともに、創意工夫により、動物の特性を引き出すための展示改善を積極的に行った。

① 主な繁殖動物

園名	動物名	出産・孵化数				備考
		オス	メス	不明	計	
上野	クロキツネザル		1		1	
	アジアゾウ	1			1	
	キンカジュウ				1	
	ケープペンギン			3	3	生存2
	ミヤコカナヘビ			56	56	
多摩	アカガシラカラスバト	1	5	7	13	生存13
	オランウータン	1			1	
	レッサーパンダ		2		2	
	キリン	2	1		3	
	チーター	2	2	2	6	生存3
葛西	フェアリーペンギン	4	1	2	7	生存5
	ミナミイワトビペンギン	1	1	1	3	生存1
	オウサマペンギン	1	1		2	生存1
	チューブスナウト			30	30	
	ゼニタナゴ			439	439	
井の頭	ツシマアカネズミ			5	5	生存4
	マーラ	1			1	
	ニホンリス	15	20		35	
	オカヨシガモ	1		2	3	生存2
	ホオジロ				3	生存0

② 主な展示改善

園 名	主な展示改善の件名	内 容
恩賜上野動物園 合計28件	アジアゾウに新規ヘイネット・ヘイバッグ導入	アジアゾウ舎室内展示場において、青草を入れて天井から吊るすためのヘイネットと、鼻だけが届く位置に設置して使用するヘイバッグを設置し、エンリッチメントとして導入した。
	ハクビシン展示環境改善	ハクビシン展示場のムクノキとスタジイの間の高所に、はしごロープをかけ、木の間を移動できるようにした。途中に餌場も取り付け、入園者から見やすい場所で、採食する様子がみられるようにした。
	西洋品種と日本在来家畜の実物大比較パネルの設置	子ども動物園すてっぷのふたば牧場に日本在来家畜と西洋品種の大きさ比較を容易にし、普及啓発効果を高めるため、ウマ・ブタの実物大パネルを設置した。
多摩動物公園 合計24件	オランウータン成獣オスのスカイウォークの実施	馴致、試行を経て、スカイウォーク放飼のローテーションに継続的に成獣オスを組み込み、迫力ある展示を実現した。
	アフリカゾウ運動場の展示改善	運動場内に、遊具として伐採樹木根を設置する事で、多様な行動を引き出した。
	昆虫園本館の「ふれあいコーナー」の展示変更	感染症対策により、従来のふれあい展示ができなくなったため、代わりに「昼に鳴く虫」や「干支の牛にちなんだ虫たち」など、テーマを決めた展示を実施した。
葛西臨海水族園 合計20件	オウサマペンギン雛の展示	昨年に続きオウサマペンギンの繁殖に成功し雛を11月より放飼場で公開した。
	照明交換によるサンゴ展示の充実	照明をLED照明に変更する事で、サンゴ類や魚類の展示を充実させた。
	メンダコ稚仔の展示	メンダコの卵がふ化し、深海トピック水槽によるリアルタイムモニター展示をおこなった。ふ化の瞬間の撮影に成功した。
井の頭自然文化園 合計17件	ミーアキャットの展示改善	室内飼育していたミーアキャットをヤマアラシの屋外放飼場に移動し、2種雑居展示を実現した。
	ツシマヤマネコ舎周辺植栽基盤補修工事	ツシマヤマネコ舎周辺の植栽を対馬に自生する種に植え替えて、生息環境を普及啓発した。
	イノシシ放飼場の拡張工事	イノシシ放飼場を拡張し、草地を取り入れ、土掘り行動を誘発した。

(2) 研究成果の発表

動物園で得られた野生動物や教育普及活動に関する情報や研究成果等について、研究会等で積極的に発信した。

① 恩賜上野動物園 (合計5件)

タイトル・演題	発表者・著者	発表場所または掲載雑誌等
M99 使用報告 (ハートマンヤマシマウマ)	地挽 良典	第 32 回大型動物麻酔研究会
Zoom を用いたリモート学習プログラムの可能性-「うへの ZOO スクール」を事例に-	古坂 志乃	第 61 回日本動物園水族館教育研究会ウェブ大会
森の王者クマタカ 3 年連続の繁殖	牧村 さよ子 小島 善則 中村 壮登	どうぶつと動物園 2020 年春号 (2020. 4)
シュレーゲルアオガエルの飼育下繁殖 冬眠から産卵まで	田辺 信吾	どうぶつと動物園 2020 年夏号 (2020. 7)
上野動物園に生息する昆虫を調べる 調査結果と子ども動物園での活用方法	村野 基樹 高松 美香子 藤井 智子	どうぶつと動物園 2020 年夏号 (2020. 7)

② 多摩動物公園 (合計9件)

タイトル・演題	発表者・著者	発表場所または掲載雑誌等
Nutrition management of captive Malayan tapirs (飼育下マレーバクの栄養管理)	伊藤 香緒里	SEAZA 2020 Conference
増え続けるアメリカの昆虫館 ~その実態を探りに~	田中 陽介	令和2年度全国昆虫施設連絡協議会
多摩動物公園における1年間の M99 使用例	坪井 あきほ	第32回 大型動物麻酔研究会
Medical treatment of rhinosinusitis with Levofloxacin and Shin'iseihaito in a female Borneo orangutan (Pongo pygmaeus) (レボフロキサシンと辛夷清肺湯を使用したボルネオオランウータンの鼻副鼻腔炎の内科的治療について)	太田香織 (チェンバーズ香織)	13th International Virtual Conference of Asian Society of Conservation Medicine (第13回アジア保全医学会 オンライン国際会議) ポスター発表

タイトル・演題	発表者・著者	発表場所または掲載雑誌等
アカガシラカラスバト～東京の鳥を守る	小島 善則	野生生物保全センター講演会「野生生物を救護する～動物園にできること」
クロツラヘラサギ～保護された個体の活躍	石井 淳子	野生生物保全センター講演会「野生生物を救護する～動物園にできること」
東京で生まれ佐渡の大空へ多摩動物公園でトキを飼育繁殖	石井 淳子	都政新報12月4日
相性に左右されないペアリングの進め方 ユキヒヨウの多様なペアによる繁殖を目指して	高津 磨子	どうぶつと動物園 2020年夏号 (2020.7)
アジアゾウ“アマラ”の引越し	藤本 卓也 兒島 匠	どうぶつと動物園 2020年秋号 (2020.10)

③ 葛西臨海水族園（合計10件）

タイトル・演題	発表者・著者	発表場所または掲載雑誌等
葛西臨海水族園で孵化したメンダコ <i>Opisthoteuthis depressa</i> の稚仔について	小味 亮介 村松 菜由子	第三回 イカ・タコ研究会 on the Web
Pilot study of gillnet bycatch mitigation measures under controlled condition	鈴木 康子 佐藤 信彦 内山 幸 野島 大貴	Pacific Seabird Group annual meeting、PSG
マイクロサテライトDNAマーカーを用いたフンボルトペンギンの集団解析の検討	並木 久美 野島 大貴	東京農業大学 令和2年度卒業論文
国内で飼育されるコガタペンギンの系統解析	樋口 綾 野島 大貴	東京農業大学 令和2年度卒業論文
飼育海鳥の着水時間を延ばす環境エンリッチメント	佐藤 信彦 野島 大貴	2020年度日本バイオロギング研究会シンポジウムワークショップ「動物園・水族館×バイオロギング×野外フィールド」
水族園で海鳥を飼育する～伝え・学ぶ場の提供～	野島 大貴	帝京科学大学 生命環境学部 アニマルサイエンス学科 アニマルサイエンストピックス
ケイマフリの生息域外保全を見据えた繁殖生態調査	野島 大貴	令和2年度第2回ウミガラス保護増殖検討会

タイトル・演題	発表者・著者	発表場所または掲載雑誌等
YouTubeLiveを活用した干潟における海洋ごみプログラム	大河原 陽子 雨宮 健太郎 天野 未知	第61回日本動物園水族館教育研究会ウェブ大会
リモートでの教育プログラムの実践と課題—一家と水族園をつないで「くらべてみるとおもしろい」	天野 未知	第8回海洋教育サミット-海洋教育における体験の再考
少しずつ明らかになるメンダコの謎	小味 亮介	どうぶつと動物園 2021年冬号 (2021. 1)

④ 井の頭自然文化園（合計3件）

タイトル・演題	発表者・著者	発表場所または掲載雑誌等
ツシマヤマネコ——井の頭自然文化園が取り組む保全と飼育	唐沢 瑞樹	野生生物保全センター講演会「野生生物を救護する～動物園にできること」
動物園の中にある近所の自然「いきもの広場」生きものたちのにぎわいのままに	武笠 友美 金原 功	どうぶつと動物園 2020年夏号 (2020. 7)
北村西望と彫刻園 新しい価値の発信を目指して	土方 浦歌	どうぶつと動物園 2021年冬号 (2021. 1)

⑤ 総務部（合計1件）

タイトル・演題	発表者・著者	発表場所または掲載雑誌等
上野動物園における情報ラベルの現状	<u>Wu Ximei</u> 高田 陽 馬島 洋 相羽 美玖 岡部 龍登 倉本 宣	第61回日本動物園水族館教育研究会ウェブ大会（ポスター発表）

※下線は外部研究者

(3) 共同研究

大学や研究機関と協力し、動物学、獣医学等の学術的な見地から共同研究を進めた。

提 携 先	提 携 園	研究テーマ
東京大学博物館	東京動物園協会	希少動物の保全、研究及び教育
東京大学大学院農学生命科学研究科	東京動物園協会	希少動物の保全、研究及び教育
首都大学東京	東京動物園協会	希少動物の保全、研究及び教育
日本医科大学	東京動物園協会	希少動物の保全、研究及び教育
東京農工大学	東京動物園協会	希少動物の保全、研究及び教育
森林研究・整備機構 森林総合研究所	東京動物園協会	イモリの保全及びその生態学的研究
国立科学博物館	東京動物園協会	動物等の研究
情報・システム研究機構 国立極地研究所	東京動物園協会	連携・協力に関する協定
岐阜大学応用生物科学部	東京動物園協会	動物園水族館動物に係る研究及び教育
水産研究・教育機構	東京動物園協会	包括連携協定
ウナギ種苗研究グループ	東京動物園協会	ウナギ種苗の商業化に向けた大量生産システム実証事業研究
日本医科大学	恩賜上野動物園	ライチョウの域外飼養技術の開発に関する研究－飼育飼料の検討－
日本医科大学	恩賜上野動物園	アカガシラカラスバトの域外飼養技術に関する研究－飼育飼料の検討－
岐阜大学応用生物科学部 動物繁殖学研究室	恩賜上野動物園	希少動物の保全繁殖
明治大学	恩賜上野動物園	動物装着型データロガーを用いた定量的行動観察 (オオカワラヒワ)
岐阜大学応用生物科学部	多摩動物公園	希少動物の繁殖生理の内分泌モニタリング/多摩動物公園における希少動物の性ホルモン分析技術の推進

提携先	提携園	研究テーマ
東京都健康安全研究センター	多摩動物公園	サル類の腸管寄生原虫に関する研究（検査・駆除対策）
日本工業大学	多摩動物公園	モグラの地中掘削行動の機構学的解析
横浜市環境創造局繁殖センター	多摩動物公園	希少動物の保全に関わる試験研究
カマキリ研究グループ	多摩動物公園	外来種「ムネアカハラビロカマキリ」に関する研究
京都大学野生生物研究センター	多摩動物公園	飼育下ユキヒヨウの仔および成獣の繁殖生理に関する研究
河原 淳	多摩動物公園	トウキョウトガリネズミ繁殖生態研究
日本医科大学	多摩動物公園	飼育下チンパンジーの栄養管理に関する研究
国際農林水産業研究センター	多摩動物公園	バッタの遺伝子情報基盤の整備
東京農工大学農学部	多摩動物公園	カンガルーの口腔内及び腸内細菌叢と疾病の関連性に関する共同研究
東京農工大学農学部	多摩動物公園	昆虫等の調査・診断に関わる共同研究（オガサワラシジミ）
帯広畜産大学畜産学部	多摩動物公園	バクの乳汁成分についての研究
京都大学大学院理学研究科	多摩動物公園	飼育下オランウータンにおける雌の陰部腫脹とホルモン動態の関係
北海道大学	多摩動物公園	コアラの遺伝学（ミライ）
東北大学大学院生命科学研究所	葛西臨海水族園	フンボルトペンギン胚における特徴的四肢形態の発生操作
東邦大学	葛西臨海水族園	ペンギン類における海生適応形質形成機構の解明
電力中央研究所 株式会社イワキ	葛西臨海水族園	大規模水槽向け脱窒装置及び小型水槽用脱窒モジュールに関する共同研究
東京大学 大気海洋研究所	葛西臨海水族園	飼育動物の QOL 評価を目的とした包括的研究（エトピリカ等の飼育環境改善）
株式会社 海遊館	葛西臨海水族園	ペンギン類人工繁殖に関する共同研究

提携先	提携園	研究テーマ
日本大学生物資源科学部 海洋生物資源科学科水圏 生物病理学研究室	葛西臨海水族園	葛西臨海水族園の飼育する水生生物疾病研究に関する協定
東京大学	葛西臨海水族園	マハゼのヘネガヤ症研究に関する協定
茨城大学 アクアワールド茨城県水 族館	葛西臨海水族園	飼育下エトピリカの遺伝子解析
共立電照およびアブ式会 社共ショウ	葛西臨海水族園	大型水槽用 LED 照明の開発
東京工業大学 情報・システム研究機構 国立極地研究所	葛西臨海水族園	ペンギン科およびウミスズメ科の流体力学に関する研究
東京農業大学	葛西臨海水族園	DNA 解析によるフンボルトペンギンの多様性に関する研究
自然科学研究機構基礎生 物学研究所	葛西臨海水族園	動物行動学（マトウダイ）に関する研究
東京大学および北里研究 所	葛西臨海水族園	水族館飼育魚および飼育水の環境 DNA モニタリング技術の開発
岐阜大学	井の頭自然文化園	アムールヤマネコの繁殖生理に関する共同研究
東京農工大学	井の頭自然文化園	文科省科研費『SDGs のための子ども動物園・水族館教育（環境教育）のガイドラインに関する研究』
株式会社共立電照および 株式会社共ショウ	井の頭自然文化園	水槽用 LED 照明の開発

（４）飼育展示・教育普及研究会の開催

園内及び４園相互での情報交換と共有化を積極的に進めるとともに、研究発表等に積極的に参加することによる職員の能力向上を図るため、各園で飼育展示・教育普及担当者による研究会を定期的に開催した。

3. 動物病院業務

飼育職員と連携して病気等の予防策を講じるとともに、異常の早期発見に努め、適切な治療を行った。また、検疫業務、病理解剖、検体の保存等を行った。

(診療件数及び検疫件数)

園 別	年間診療件数		年間検疫件数	
	治療	死亡	種数	頭数
恩賜上野動物園	9,155	85	25	64
多摩動物公園	9,920	97	21	47
葛西臨海水族園	489	46	1	6
井の頭自然文化園	3,788	51	8	20

〔2〕野生生物保全事業

「野生生物保全センター」を都立動物園・水族園の野生生物保全活動の中心に位置付け、保全活動、情報収集、調査研究及び普及啓発活動を実施した。

項 目	内 容
動物園内における保全活動 (域外保全)	<ul style="list-style-type: none"> ① ニホンコウノトリ、トキは、多摩動物公園を中心に高度な飼育繁殖技術を活かした継続的な繁殖と個体や卵の移動などにより、野生復帰事業に貢献している。 ② アカガシラカラスバトは、毎年順調に繁殖しており、緊急保護個体を繁殖個体群に取り込むとともに、飼育繁殖技術の向上により自然繁殖もすすみ、飼育下個体群形成が順調に進んでいる。 ③ オガサワラシジミは、多摩動物公園で累代繁殖および周年飼育に成功したが、2020年8月に飼育下個体群が途絶え、原因を遺伝子情報から調査している。 ④ ライチョウは、上野動物園や富山市ファミリーパークなどで2015～2016年に野生卵を入手し、それらを基に飼育繁殖に着手し、山岳地帯への適応に伴う特殊な生理生態について、連携する関係者とともに解明に取り組んでいる。2019年3月には公開展示が始まり、保全の取り組みや山岳環境の重要性や保全の普及啓発を推進している。 ⑤ 東京産両生類等、希少種の繁殖に継続して成功している。一方ではまだ繁殖できない種もあり、4園で分担・連携して取り組んでいる。 ⑥ 環境省からの分散飼育の協力要請を受け、小笠原諸島の陸産貝類(カタマイマイ、アナカタマイマイ)の飼育を4園で開始した。関係機関との情報共有を図るとともに、両種の飼育繁殖に取り組んでいる。
フィールドにおける保全活動 (域内保全)	<ul style="list-style-type: none"> ① 多摩市のアカハライモリ生息地において、生息状況調査や生態調査を継続して実施し、生息個体数を増加させることに成功するとともに、地域との連携・環境教育活動を推進している。 ② アカガシラカラスバト野生個体群の遺伝的多様性を解明するため、小笠原自然文化研究所と連携し、ミトコンドリアDNAの解析を実施している。 ③ 多摩動物公園内に生息するアズマヒキガエルの繁殖状況を調査しており、原因は不明であるが、ほぼ絶滅に近い状態であることがわかってきた。事前に4園の飼育下に確保していた個体群で繁殖を開始している。
生物学技術を応用した保全活動	<ul style="list-style-type: none"> ① DNA解析により、性判別(鳥類・哺乳類)を日常的に行い、繁殖計画の推進に寄与した。また、飼育希少鳥類の遺伝的多様性の解析、メダカの地域個体群解析、アズマヒキガエルの野外での亜種間交雑状況の調査を継続して行っている。 ② 人工授精技術を用いて、自然交配が期待できないソデグロヅルのペアから有精卵を得る取り組みを継続している。

	③ 性ホルモンを測定し、ツシマヤマネコやインドサイ、アフリカゾウ、ミナミコアリクイ等の繁殖生理解明に役立てている。
調査研究・情報収集	例年海外で開催される会議などにも積極的に参加し、研究発表や情報収集、交流に取り組んでいるが、今年度は新型コロナウイルス感染症の世界的な流行により、休止やオンラインでの参加となった。
普及啓発活動	<p>① イモリの保全活動を進めている多摩市の小学校と連携し校外学習の一環として、保全活動について普及啓発を行っている。地元中学校の生物クラブを対象に観察会も実施した。</p> <p>② 東京動物園協会が取り組む保全活動を、入園者にも広く伝えるため、多摩動物公園で「すすめ！地球生命隊-ともに生きる未来へ-」を常設展示している。</p> <p>③ 例年は父島に職員を派遣して「あかぼっぽの日の集い」において、オガサワラシジミやアカガシラカラスバトの保全活動について報告するとともに、4園の保全活動を紹介しているが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため開催が休止された。</p> <p>④ ツシマヤマネコの保全に関する普及啓発として井の頭自然文化園で「ヤマネコまつり」を継続して実施している。</p> <p>⑤ 野生生物保全センター講演会「野生動物を救護する～動物園にできること～」（多摩）のほか、水辺の保全を考える講演会「江戸前のウナギとカニとトビハゼと・・・」（葛西）、「河原の象徴種カワラノギクと干潟の象徴種ウラギク」（井の頭）をオンラインで開催した。</p>
保全への協力	コウノトリの個体群管理に関する機関・施設間パネル（IPPM-OWS；任意団体）の構成員として、また事務局の一員として他の加盟機関と連携し、保全活動を推進した。千葉県野田市でのコウノトリの放鳥事業に協力し、有精卵の提供や移送などの支援を実施している。

〔3〕教育普及事業

教育普及センターを中心に、4園の連携を一層強化し、動物園・水族園の役割の一つである社会教育機能を充実させ、大人から子どもまで幅広い入園者を対象に、様々な観点から学べる多彩なプログラムを開発・計画したが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、多くのプログラムを休止又は中止、もしくはオンライン開催等へ変更した。

1. 4園連携による幅広い教育普及活動の展開

4園の独自性を活かしつつ、教育普及センターを中心に、緊密な連携体制を築き、社会教育施設としての役割を的確に果たすため、4園が連携した教育プログラムを実施した。また、他の教育機関との連携の強化をすすめた。

(1) 教育機関との連携体制の充実、強化

① ティープロ サポーター バンクへの登録

一般財団法人東京学校支援機構（ティープロ）が運営する、学校が求める支援とそれを提供できる人材をつなぐ制度「ティープロ サポーター バンク」へ団体として登録し、出張授業やオンライン授業の依頼を受ける窓口を広げた。この制度により、今年度は3件（井の頭2件、葛西1件、各園の実施数に含む）のオンライン授業を実施した。

② 2021年カレンダーの配布

東京動物園協会2021年カレンダーを東京都内の全小学校に郵送し、動物園・水族園で見られる生き物や活動の周知を図った。

(2) 生物保全や生物多様性をテーマにした関連情報の発信、講演会、企画展等

① 教育普及シンポジウム～動物園水族館における動物を介した教育活動～

動物福祉や人獣共通感染症の観点から、動物とのふれあいは縮小傾向にあるが、ふれあいを通して生き物への興味や自然を守る気持ちを高めてもらうことは、動物園・水族館の大切な役割である。シンポジウムを開催し、その教育効果や活動の理念、今後の可能性について関係者同士でディスカッションをする機会を設けた。

- ・実施日 11/24：オンライン会議システム（Zoom）にて開催
- ・申込数 58園館 154名以上（1端末で複数人の参加希望あり）、当日の最高アクセスは146
- ・基調講演 「学校飼育動物」東京農工大学 渡辺元 教授
- ・ブレイクアウトルームでのテーマ別ディスカッションと担当園
 - (1) 学校飼育動物：渡辺教授
 - (2) モルモットふれあいコーナー：井の頭
 - (3) 特別支援学校での爬虫類の触察：上野
 - (4) しおだまり展示におけるふれあい活動：葛西
 - (5) 昆虫を利用したふれあいプログラム：多摩
 - (6) ハツカネズミのふれあい・展示・学習プログラム：横浜市立野毛山動物園
 - (7) 乳牛コーナー：埼玉県こども動物自然公園

② 東京動物園水族園教育普及研究会

4園で行われている教育普及事業についての情報共有を図り、今後の教育普及活動のさらなる発展につなげる機会を設けるため、動物園協会スタッフに向けて6つの演題の報告動画を3/22からYouTubeに限定公開した。

園名	タイトル
上野	文化庁主催「ミュージアム・エデュケーション研修」で学んだこと
上野	Zoomを用いたリモートプログラムの可能性 — 「うへのZOOスクール」を事例に—
多摩	昆虫を利用した団体向けふれあいプログラムの紹介
葛西	オンラインでの教育普及活動の実践
井の頭	新型コロナウイルス下における博物館実習の実施
教育普及センター	教育普及プログラム評価手法の紹介

(3) ドリームナイト・アット・ザ・ズー&アクアリウム

障がいをもつ子ども達とその家族を対象とした教育普及活動であるドリームナイト・アット・ザ・ズー&アクアリウムは4園が共通して実施する予定であったが、上野動物園と葛西臨海水族園が、動画の公開やクイズの出題などをオンラインで実施した。

(4) 「国際生物多様性の日」等の特別な日に、4園で共通のテーマで催し物を実施した。

〇〇の日	実施日	内容
飼育の日	4/19	飼育係のこだわりを共有のテーマに各園からTwitterを発信した
国際生物多様性の日	5/22	2種類の生き物を比較することで生物の多様性を伝えるツイートを各園から発信した
世界ゾウの日	8/12	上野動物園は、動物園のゾウを守るためにと題したズーネットの記事を公開し、多摩動物公園ではゾウの生態と野生の現状を伝えるパネル展を開催した
ふれあい動物の日	11/20	教育普及シンポジウム～動物園水族館における動物を介した教育活動～を11/24に開催した
国際湿地の日	2/2	葛西臨海公園のなぎさの観察を通して湿地の大切さを伝える動画の公開し、湿地に生息する生き物を紹介するTwitterを各園から発信した

2. 定例プログラム

(1) 園内プログラム

動物解説員、飼育担当者、ボランティアなどが対面で実施してきた園内での定例の教育プログラムのほとんどが開催できなかった。感染症対策を図った形式に変更した一部のプログラムのみを、時期・回数を限定して実施した。

園名	内容(実施回数 対応人数)
多摩	・動物解説員によるガイドツアー：スポット形式(81回 836名)
葛西	・動物解説員によるガイドツアー：ミニガイド(154回 392名)
井の頭	・動物解説員によるガイドツアー：ワンポイントガイド(31回 272名) ・学芸員による彫刻園ギャラリートーク(9回 81名) ・みてみてエサの時間だよ(642回 8265名)

(2) 動物相談室の運営

上野動物園、多摩動物公園内の動物相談所において、入園者及び電話・書簡による相談に応じた。

園名	来園	電話	書簡	計
上野	338件 594名	1424件	0件	1762件
多摩	443件 889名	442件	28件	913件
計	781件 1,483名	1,866件	28件	2,675件

3. 特別プログラム

自然科学への探求心、動物園や野生生物に関する知識を深めるとともに、環境保全意識の向上を図ることを目的として、体験を重視して様々なプログラムを計画したが、すべての対面でのプログラムが休止となった。予定していたものの一部をオンライン形式に変更し、展示前の掲示によるものなど、感染対策が図れているものに限定して開催した。

(1) 実施した主な参加型プログラム

園名	内容(実施日)
上野	・うへのZOOスクール「塗り絵で学ぼう動物の色のふしぎ」(8/2) ・うへのZOOスクール「自分だけのおもしろ動物図鑑をつくろう」(8/9)
多摩	・Web版動物園ふしぎ発見教室(11/8)
葛西	・小学3、4年向けシリーズプログラム「海のあそびや2020」第1回「くらべてみるとおもしろい・クロマグロとくらべてみよう」(9/20・21) ・高校生・大学生向け講座「海の学び舎」「Researchers of Aquarium——水族園の研究活動」第1回「フィールド調査でわかったユウゼンの生態」(10/25) ・小学5、6年生対象「集まれ! 汐っ子(しょっこ)たち——くらべて みつけて 魚のひみつ」(3/13)

(2) 実施した主なクイズラリー、スタンプラリー等

園名	内容(実施日)
上野	・クイズで発見 Twitter版「クイズで発見! しっぽのいろいろ」(9/26・27)
多摩	・知れば知るほどおもしろい! うんち・しっぽクイズ10(8/8~9/8) ・つのくいず(9/19~11/24)
葛西	・YouTubeLive「お正月は水族園クイズでうっしっしー」(1/2・3)

(3) 実施した主な特定の日や期間に実施したプログラム

園名	内容(実施日)
上野	・シャンシャン3歳記念企画(6/12)
多摩	・園長からの挑戦状 3(さん)連9(きゅう)は動物園でミッションクリア(ミッション8)(7/23~26)
葛西	・「All About MAGURO 2020」セルフ観察シート「マグロでビンゴ」(10/10・11)
井の頭	・「ヤマネコになって メッセージを送ろう」フォトコンテスト(3/12~)

(4) フィールドプログラム

すべてのプログラムを休止した。

(5) 実施した主な講演会

園名	内容(実施日)
多摩	・干支のオンライン講演会(1/10) ・野生生物保全センター オンライン講演会「野生動物を救護する——動物園にできること」(3/7)
葛西	・講演会「つどえ オロロ〜ン!」(11/14) ・身近な水辺保全講演会「江戸前のウナギとカニとトビハゼと…」(2/27)
井の頭	・身近な水辺保全講演会「水辺の植物・動物・人のつながりを考える」(3/14)

4. 園内での情報発信

動物展示前の常設の解説サインを更新し、印刷物や特設展等で、より詳しい情報提供を行った。

(1) ニュースレターや解説パンフレット等の発行

園名	内容
上野	・ZOO TODAY(7・8月、9・10月、11・12月合併号) ・観察ガイドブックレット2「オスとメスのふしぎ」
多摩	・動物園新聞(No. 328~No. 335)
葛西	・SEA LIFE NEWS(第91号~第96号)

(2) 実施した主な特設展、特設掲示

園名	内容(実施日)
上野	・「モ〜ウいくつねるとお正月? ウシ科のなかまマップ(12/1~12/25)
多摩	・飼育の日パネル展「飼育係のここがこだわり! パネル展」(4/9~6/30) ・干支展「モ〜っと知りたいウシのせかい」(12/17~)
葛西	・特設展示「魚が食べたい!! きみはおさかなエージェント」(7/16~12/25)
井の頭	・彫刻館企画展「筋肉礼賛——北村西望と近代塑造の人体標準」(9/15~12/13)

5. 学校教育との連携

学校教育との連携を深め、教員を対象とした実践的な研修会や児童、生徒等を対象とした学習プログラム等を計画した。上野と葛西は学校団体の入園が制限され、対面での学校向け教育活動がすべて実施できず、多摩と井の頭も感染症拡大防止対策ができる形での内容に制限され、対応数も限定された。それらの対策として、オンラインの学習教材や研修教材を開発し、オンライン授業や出張授業を開始した。

(1) 教員を対象としたプログラム

① 授業に活かせる「動物園・水族園」講座

夏休み中と1~2月に予定した対面でのセミナーはすべて休止した。

② 授業に活かせる動画集

学校団体自体の来園が制限され、来園した場合でも対面での教育プログラムを実施できなかったため、学校の授業中に活用できる、単元に即した動画を順次制作し、YouTubeで公開した。

対象教科	タイトル	制作園
小学校 国語	たまどうぶつこうえんのキリンの赤ちゃん	多摩
	とりのくちばし(うえの) ひらがな	上野
	とりのくちばし(うえの) カタカナ	上野
	とりのくちばし(たま)	多摩
	どうぶつのみのもりかた(うえの) ひらがな	上野
	どうぶつのみのもりかた(うえの) カタカナ	上野
	うみのかくれんぼ~オニダルマオコゼ~	葛西
	うみのかくれんぼ~オクヨウジ~	葛西
	うみのかくれんぼ~カレイのなかまプレイス~	葛西
	スイミーのくらし	葛西
	たまどうぶつこうえんのじゅういのいちにち	多摩
小学校~中学校	きせつと生物(ニホンジカ 春~夏)	上野

対象教科	タイトル	制作園
理科	きせつと生物（ニホンジカ 秋～冬）	上野
	きせつと生物（ニホンザルの1年）	上野
	動物たちの食べかた ①アジアゾウ	上野
	動物たちの食べかた ②キリン	上野
	動物たちの食べかた ③ホッキョクグマ	上野
	動物たちの食べかた ④カリフォルニアアシカ	上野
	動物たちの食べかた ⑤ジャイアントパンダ	上野
	動物たちの食べかた ⑥ふんをくらべてみよう	上野
	みぢかな虫をさがそう	多摩
	いろいろな虫をよびよせよう！バナナトラップ編	井の頭
	カブトムシの一生を知ろう！	多摩

③ 生き物飼育についての先生向け研修動画とオンライン相談会

1～2月に実施していた生き物の飼い方をテーマにした教員向け研修会の代わりに、教員向けの研修動画を制作し、YouTubeで公開した。また、教員の個々の質問に答えるために、葛西臨海水族園ではオンライン相談会を開催し、動画を視聴した教員からの個々の質問に回答するためのオンラインフォームを動画制作園ごとに開設した。

タイトル	制作園
モンシロチョウの飼い方	多摩
学校で飼育してみよう！——メダカ編	葛西
学校で飼育してみよう！——ザリガニ編	葛西
学校で飼育してみよう！——ヤゴ編	葛西

④ その他の教員向け研修・セミナー

実施園	講座名（実施日 対応人数）
多摩	東京都公立学校中堅教諭資質等向上研修Ⅰ（7/20 7名・8/18 7名）
葛西	東京都教職員研修センター専門性向上研修「生き物飼育」（10/27 29名）於：東京都教職員研修センター

（2）児童・生徒・学生などを対象としたプログラム（大学・専門学校含む）

園名	内容	件数 対応人数
上野	団体見学指導	受け入れ休止 2件 208名（試行）
	団体ふれあい体験指導（子ども動物園）	受け入れ休止
	出張授業・講師派遣	8件 749名
	オンライン授業	14件 1371名

園名	内容	件数 対応人数
	団体引率者への事前指導：電話対応等含む	11件
	職場訪問	9件 102名
	職場体験	0件 0名
多摩	団体見学指導	54件 4,222名
	団体ふれあい体験指導（モルモット教室）	受け入れ休止
	出張授業・講師派遣	10件 891名
	オンライン授業	4件 13名
	団体引率者への事前指導：電話対応等含む	295件
	職場訪問	1件 6名
	職場体験	0件 0名
葛西	団体見学指導	受け入れ休止
	出張授業・講師派遣	2件 180名
	オンライン授業	10件 626名
	団体引率者への事前指導：電話対応等含む	20件
	職場訪問	1件 5名
	職場体験	1件 1名
井の頭	団体見学指導	18件 925名
	団体ふれあい体験指導（モルモットふれあいコーナー）	受け入れ休止
	出張授業・講師派遣	5件 285名
	オンライン授業	7件 242名
	団体引率者への事前指導：電話対応等含む	38件
	職場訪問	1件 3名
	職場体験	0件 0名

（3）教材の貸出・提供、教育プログラムの開発

事前学習や当日の見学時に活用するための教材の開発と提供を行った。また、生き物を見るポイントや園の見どころ、プログラム・教材を紹介した教育活用ガイドブックなどの参考資料を引率者に配布した。一部は感染症拡大防止のために配布・貸出を休止した。

園名	内容	件数・対応人数
上野	団体向け教材貸出 ・わくわく観察バッグ、クイズdeスタンプなど	貸出休止
	配布資料 ・観察ガイドブックレット	オンラインで公開
多摩	団体向け教材貸出 ・紙芝居セット、動物ふしぎ発見ポケットなど	224件 18,152名
	配布資料 ・セルフガイドブックレット、動物クイズなど	
葛西	配布資料 ・水族園魚タッチングシート（ダウンロード教材）	配布休止

園名	内容	件数・対応人数
井の頭	配布資料 ・ ワークシート用資料集	実地踏査時に配布

(4) 大学教育の実践

連携協定を締結した大学等、大学・専門学校の学生に向けた講義、実習プログラム等を実施した。

① 実習

内容	上野	多摩	葛西	井の頭	計
飼育実習	—	—	—	2名*	2名
獣医臨床実習	—	—	—	—	—
博物館実習	—	9名	12名	4名	25名
特別実習（研究・卒論）	3名	6名	—	1名	10名
インターンシップ（都立大）	—	—	—	—	—

*オンラインで実施

② 講義・見学指導（オンラインを含む）

園名	内容（実施日 対応人数）
上野	・日本大学理工学部学芸員課程「動物園の教育活動について」（12/3 13名）オンライン
多摩	・東京コミュニケーションアート専門学校「動物園・動物飼育専攻動物観察実習」（9/11 79名） ・東京都立大「博物館実習Ⅰ」（10/17 9名） ・日本獣医生命科学大学獣医学科「比較発達心理学実習」（10/9・16・11/13・20 延べ175名） ・桜美林大学「環境政策ゼミ専攻演習」（11/28 19名） ・東京農工大学・共同獣医学科「獣医倫理」（12/8 40名） ・埼玉動物海洋専門学校「動物園概論／環境エンリッチメント研修」（12/17 30名）
葛西	・帝京科学大「アニマルサイエンストピックス：水族園で海鳥を飼育する～伝え・学ぶ場の提供」（6/2 150名）オンライン ・武蔵野美術大学「ミュゼオロジー実習」（12/9 50名）オンライン
井の頭	・武蔵野美術大学造形学部通信教育過講義「生涯学習論」（7/25 32名）出張 ・明治大学「博物館展示論」（11/8・9名） ・東京理科大学理工学部応用生物科学科「オシドリの繁殖生態について」（8/9 2名） ・日本獣医生命科学大学相談室ワークショップ「動物解説員の仕事」（9/20 15名）オンライン

6. アウトリーチ

他団体が開催する催し物等で、園外に飼育生物や資料を持参して解説を行ったり、観察会を実施したりする教育プログラム。一部のプログラムはオンラインにより実施した。

園名	内容(実施日 対応人数)
上野	・国立国会図書館国際子ども図書館「カメの飼育員さんのお話し」(11/5 58名)
井の頭	・三鷹ネットワーク大学干支講座「家畜のウシ、野生のウシ」(1/15 21名) オンライン

7. 移動水族館

葛西臨海水族園では、普段、水族園に足を運ぶことができない人にも、海の生物に親しむ機会を提供し、海と海洋生物への興味、理解を深めてもらうため、移動水族館専用車を活用し、水族園外においても普及啓発活動を実施した。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、予定していた活動のいくつかは中止になった。

実施回数	延べ参加者数
22回	3,397名

8. 友の会運営

動物園・水族園への関心を高めるとともに、広く自然科学への興味を育ててもらうために組織している「東京動物園友の会」の運営を行った。

名称	東京動物園友の会
会員数	一般：3,572名 ジュニア：242名 (令和3年3月31日現在)
実施事項	① 新規入会、継続手続等、受付・管理事務 ② 季刊雑誌「どうぶつと動物園」及びジュニア向け会誌「ZOO! どうぶつえんしんぶん」の送付 ③ 各種普及活動案内送付(ダイレクトメール) ④ 新規入会案内パンフレットの配布

(1) 友の会会員対象催物

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、動物園・水族園の園内特別見学会や観察会、また、関連施設見学ツアーやフィールド観察会等、人を集める催物については開催を見送り、オンラインでの教育普及事業を実施した。

実施月日	行事名	内容・講師等	参加者
1月10日	干支の動物講演会 (オンライン開催)	4園の最近の話題 講演「乳成分と哺乳類の進化」：浦島匡(帯広畜産大学地産学部教授)	35名 (一般含 187名)

実施月日	行 事 名	内 容 ・ 講 師 等	参 加 者
		講演「野生のウシっているんですー熱帯アジアからのフィールドレポート」：松林尚志（東京農業大学農学部教授） 企画：多摩動物公園	
11月15日	都立動物園・水族園 情報オンライン配信	園長の出演する上野動物園近況報告動画を制作し、YouTube動画として配信した。	会員対象 限定公開
12月25日	都立動物園・水族園 情報オンライン配信	園長の出演する多摩動物公園近況報告動画を制作し、YouTube動画として配信した。	会員対象 限定公開
1月25日	都立動物園・水族園 情報オンライン配信	園長の出演する葛西臨海水族園近況報告動画を制作し、YouTube動画として配信した。	会員対象 限定公開
2月20日	都立動物園・水族園 情報オンライン配信	園長の出演する井の頭自然文化園近況報告動画を制作し、YouTube動画として配信した。	会員対象 限定公開

(2) ジュニア会員対象催物

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、動物園・水族園園内での人を集める催物は、開催を見送った。

(3) 「友の会の日」の実施

「友の会の日」は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、園内での開催を見送った。

9. 資料の収集・公開

動物及び動物園・水族館関係の専門書や学術雑誌、普及雑誌を中心に収集した。定期刊行物は、購入や寄贈のほか、動物園、博物館、研究所等の出版物との交換により収集した。

新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため図書コーナーは休室し、代替措置として資料の複写郵送サービスを実施した。

写真・ビデオ等の映像資料のほか、動物の音声資料（録音データ）も園内外の利用に供した。収蔵図書については、ウェブサイト上に図書検索システムを設けている。

(1) 図書収集状況

区 分	収 集 点 数	国 内			国 外			摘 要
		購 入	寄 贈	交 換	購 入	寄 贈	交 換	
書 籍 類	213	103	33	0	4	74	0	収蔵数 和書 13,800冊 洋書 4,234冊
雑 誌 類	509	199	153	77	71	5	4	

(2) 図書利用一覧

区分	動物園	哺乳類	鳥類	爬虫類	魚類	無脊椎	一般	その他	計
件数	10	1	0	0	0	1	0	1	13件

(都立動物園水族園関係者は除く)

(3) 映像資料利用状況

区分	無料		有料		合計	
写真	30件	130点	61件	166点	91件	296点
ビデオ映像	4件	463点	38件	67点	42件	530点
音声資料	1件	11点	3件	7点	4件	18点
計	35件	604点	102件	240点	137件	844点

(都立動物園水族園関係者は除く)

10. 出版事業

(1) 「東京動物園友の会」会員向け機関誌の発行

動物及び動物園に関する情報を提供するための出版物を発行し、「東京動物園友の会」会員その他関係機関等に配付した。

刊行物	内容
どうぶつと動物園	<p>A4変型判・約54頁／約4,700部／春・夏・秋・冬号 (Vol.72-2～73-1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・春号は上野動物園で3年連続繁殖したクマタカの飼育レポートや、井の頭自然文化園で誕生したフェネックの成長記録等を掲載した。 ・夏号は上野動物園のシュレーゲルアオガエルや多摩動物公園のユキヒョウの飼育レポート、さらに葛西臨海水族園のウィーディシードラゴンや井の頭自然文化園の「いきもの広場」の記事等を掲載した。 ・秋号は多摩動物公園のアジアゾウ「アマラ」の移動や教育普及センターの方針に関する記事、海外研修レポートなどを掲載した。 ・冬号は上野動物園の新施設「パンダのもり」の紹介や、葛西臨海水族園のメンダコの話、井の頭自然文化園の彫刻園の記事等を掲載した。 ・その他、横浜市の動物園におけるミゾゴイの繁殖に関する飼育レポートや、研究や保全活動の最新知見として、野生のツキノワグマの食性やカモメの減少、大陸のコウノトリの生息調査等の記事を掲載した。
ZOO! どうぶつえん しんぶん	<p>A4判・8頁／約600部／8月・2月発行</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第24号(8月発行)は「オグロプレーリードッグ」を特集した。体の特徴や巣穴のしくみについて写真を使ってわかりやすく解説した。ま

	<p>た、健康診断のための一斉捕獲の様子等も紹介した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第25号（2月発行）は「ハシビロコウ」を特集した。動かない鳥と言われるハシビロコウのしぐさや体の特徴、上野動物園でのようす等を写真とともに紹介した。
--	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

(2) 民間との協働による出版物

刊 行 物	内 容
みんなの上野動物園	<p>A4変型判・12頁／第75号（10万部）、第76号（最終号）（7万部）発行</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上野動物園の話題の動物を取り上げ、動物園の魅力を伝える情報誌を発行し、園内及び園外（都庁や近隣施設等）に設置して配布した。 ・第76号をもって休刊。
	第75号 パンダの未来をひらくシャンシャン、他
	第76号 休園日のお仕事紹介、他

(3) 葛西臨海水族園情報誌の発行

刊 行 物	内 容
SEA LIFE NEWS	<p>A4判・4頁／約22,000部／第91号～第96号（6回）発行</p> <ul style="list-style-type: none"> ・葛西臨海水族園の展示生物についての情報や保全活動・調査活動等に関する情報を取り上げ、園内で配布するとともに東京ゾーンネットサイトで公開した。
	第91号 手さぐりの赤ちゃんメンダコのお世話、他
	第92号 あなたもわかる！ ラットフィッシュのオスとメス、他
	第93号 特設展示「魚が食べたい!! きみはおさかなエージェント」、他
	第94号 クロマグロだけじゃない 大洋の航海者たち、他
	第95号 2年連続！ オウサマペンギンの繁殖、他
	第96号 おいしい近海魚キンメダイ、他

(4) 高碕賞の表彰

季刊「どうぶつと動物園」に年間（春号～冬号）に掲載された記事及び写真を対象に、優れた作品を選出し表彰した（新型コロナウイルス感染拡大防止のため表彰式は開催せず、高碕賞受賞者による講演動画をオンライン配信した）。

区分	タイトル	掲載号	氏 名	摘 要
高碕賞	ミゾゴイの飼育と繁殖——横浜市立動物園での15年間の取り組み	春号	白石 利郎	横浜市繁殖センター

奨励賞	井の頭自然文化園のニホンリス	春号	嶋田 繭	
	多摩動物公園のタスマニアデビル	夏号	佐藤 考一	
	横浜市立金沢動物園のオオカンガルー	冬号	越川 映子	

11. インターネット事業

都立動物園・水族園公式サイト「東京ズーネット」、上野動物園のジャイアントパンダ情報サイト「UENO-PANDA.JP」、Twitter（6アカウント）、YouTube、Instagramを通じて、動物園・水族園の基本情報及び動物に関する情報を広く提供・配信した。

(1) ウェブサイト「東京ズーネット」の運営 (<https://www.tokyo-zoo.net/>)

都立動物園・水族園の公式サイトとして、基本情報としての利用案内をはじめ、動物に関する最新情報や各園イベント情報、動物に関する基礎知識、各園の見どころや動物の紹介、保全への取組など、さまざまな情報を提供した。また、バーチャルツアーや動画等で動物園の魅力を伝えるコンテンツ「東京Zoovie Maps & Tours」や、都立動物園・水族園に関する書籍や雑誌を電子書籍として公開する「どうぶつえんデジタルライブラリー」を新規公開した。

【年間アナリティクス数値】

ページビュー数	34,896,151
ユニークユーザー数	8,534,345

【主なコンテンツ】

ページ名	内 容 等
東京Zoovie: Maps & Tours	グラフィカルなマップを入口として4園のバーチャルツアー映像や動画によって園内の見どころを案内するとともに、日本や世界の生き物について学べる教育普及情報を配置した新コンテンツ（令和3年3月29日公開）。
ニュース&イベント	都立動物園で飼育している動物に関する最新情報と各園イベント情報
各種利用案内	開園時間、休園日、入園料、団体入園、乳幼児・障害者対応、園内利用施設、交通アクセス、園内マップ
見どころと歴史	各園の特徴と見どころ及び歴史を紹介
保全への取組	野生生物や生物多様性の保全、研究、環境教育に関する取り組みを紹介
どうぶつ図鑑	飼育動物に関する生態等の解説
東京ズーネットBB	動物の様々な行動の動画配信（令和3年3月31日現在計1,040点）
鳴き声図鑑	動物の鳴き声の音声配信
東京動物園友の会	友の会に関する案内や発行雑誌の紹介
蔵書検索	上野動物園資料室に収蔵されている動物関連図書の検索システム
どうぶつえんデジタ	都立動物園・水族園に関する書籍や雑誌を電子書籍として公開

ページ名	内 容 等
ルライブラリー	
動物園サポーター	動物園サポーターの紹介、登録方法、登録者リスト、会計報告
学校向けプログラム	教育機関のための各種プログラムの紹介
ガイドアプリ	上野動物園と葛西臨海水族園をガイドする都立公園ガイドアプリ「Tokyo Parks Navi」の紹介
かんさつシート	多摩動物公園の「かんさつシート」の紹介
水族園魚 ッチングシート	葛西臨海水族園で楽しく生物観察をするためのワークシートの紹介
移動水族館	葛西臨海水族園の「移動水族館」事業の紹介と申込案内
いきもの広場	井の頭自然文化園園内の「いきもの広場」の紹介、毎週の活動の紹介
モルモットふれあいコーナー	井の頭自然文化園モルモットふれあいコーナー事前学習ムービーによる紹介
花ごよみ	井の頭自然文化園の四季おりおりの植物を紹介

(2) ウェブサイト「UENO-PANDA.JP」の運営 (<https://www.ueno-panda.jp/>)

上野動物園のジャイアントパンダ情報サイトとして、展示個体ならびに過去に飼育した個体の情報、飼育係によるレポート、ジャイアントパンダに関する最新情報やQ&A等を紹介。また、保全への取り組みやジャイアントパンダ保護サポート基金の紹介、さらには壁紙ダウンロードコーナーや企業協賛の募集等のコンテンツ等、豊富な情報を掲載した。

【年間アナリティクス数値】

ページビュー数	3,798,429
ユニークユーザー数	721,434

【主なコンテンツ】

ページ名	内 容 等
トピックス	上野動物園のジャイアントパンダに関する最新情報
パンダプロフィール	上野動物園で展示している3頭の個体紹介
ジャイアントパンダについて	様々な角度からジャイアントパンダを紹介
パンダムービー	動画によるジャイアントパンダ紹介

歴代のパンダたち	これまで上野動物園で飼育した個体を動画とともに紹介
パンダ舎の紹介	ジャイアントパンダ舎を写真付きで紹介
パンダ大百科	ジャイアントパンダに関するQ&A
保全への取り組み	ジャイアントパンダ保護研究に関する概要
熊猫的新聞（パンダニュース）	飼育係による写真付きのレポート
壁紙ダウンロード	パソコン用にダウンロードできる壁紙を提供
ジャイアントパンダ保護サポート基金	基金の概要、企業協賛の募集

（3）Twitterによる情報発信

SNS媒体「Twitter」を活用し、4園と東京ズーネット及び教育普及センターの6アカウントから、積極的に情報を提供した。

アカウント	フォロワー数 (令和3年3月31日現在)
恩賜上野動物園 @UenoZooGardens	1,032,340
多摩動物公園 @TamaZooPark	236,247
葛西臨海水族園 @KasaiSuizokuen	178,073
井の頭自然文化園 @InokashiraPark	137,290
東京ズーネット @TokyoZooNet_PR	431,559
東京動物園協会教育普及センター @TZPS_EduCenter	9,522

（4）YouTubeによる情報発信

動画配信サービス「YouTube」を活用し、「東京ズーネット公式チャンネル」「葛西臨海水族園公式チャンネル」「東京ZoovieYouTubeチャンネル」で動画配信を積極的に行なった。

（5）Instagramによる情報発信

都立動物園・水族園の公式Instagramアカウント (@tokyo_zoogram) を7月20日に開設し、写真や動画を中心とした積極的な情報発信を開始した。フォロワー数 7,714（3月31日現在）。

（6）メールマガジンによる情報発信

プッシュ型メディアであるメールマガジンを活用し、「ズー・エクスプレス」の配信を8月28日に再開し、隔週で計16号（No. 802～817）を配信した。登録数 1,400（令和3年3月31日現在）。

12. 映像記録資料制作

(1) 動物写真撮影

都立動物園・水族園を中心に、飼育動物全般に関する記録及び園内外の行事や催物を撮影・記録した。

(2) ビデオ撮影・制作

飼育動物の行動記録や動物園情報をビデオ映像として撮影記録し、入園者向けニュースや各種研究発表として上映・提供するほか、ウェブサイト「東京ゾーネット」「UENO-PANDA.JP」において配信した。

内 容	時間	園名	主な使用目的
ジャイアントパンダ恋鳴き	26秒	上野	資料として提供
ジャイアントパンダ輸送方法	6分56秒	上野	資料として提供
ジャイアントパンダシャンシャン誕生日	6分13秒	上野	ゾーネット配信用（使用せず）
キリンの反芻	35秒	多摩	イベント放映用
ジャイアントパンダの成長	2分40秒	上野	GP運営委員会用
新型シャトルバス	60秒	上野	資料として提供
カバ同居	9分14秒	上野	資料として提供
メンダコの孵化	1分20秒	葛西	ゾーネット配信用
トキ成長の記録	4分36秒	多摩	展示放映用
ヒノマルチョウ	10分46秒	上野	資料として提供
上野動物園福田園長トーク	10分40秒	上野	イベント放映用
アジアゾウ親子公開初日	4分1秒	上野	資料として提供
アジアゾウ アヌーラ、アマラ同居	12分40秒	多摩	資料として提供
オカピ トト搬入	10分27秒	上野	資料として提供
シャンシャンイベント御徒町（福田園長登壇）	31分54秒	上野	資料として提供
多摩動物公園渡部園長トーク	8分14秒	多摩	イベント放映用
インドサイ ゴボン搬入	41分21秒	多摩	資料として提供
ツシマヤマネコ人工授精ショートバージョン	40秒	井の頭	イベント放映用
ジャイアントパンダの成長	6分2秒	上野	資料として提供
葛西臨海水族園錦織園長トーク	12分48秒	葛西	イベント放映用

内 容	時間	園名	主な使用目的
ジャイアントパンダの成長	5分5秒	上野	GP運営委員会用
ジャイアントパンダの成長	10分25秒	上野	商品用として提供
動物脱出対策訓練	4分3秒	多摩	資料として提供
井の頭自然文化園永井園長トーク	16分12秒	井の頭	イベント放映用
アジアゾウ親子とスーリヤ同居	3分57秒	上野	資料として提供
インドサイ ナラヤニ搬出	21分54秒	多摩	資料として提供
アジアゾウ アルンの成長	20秒	上野	インスタグラム配信用
アジアゾウ アマラ引越し	28分48秒	多摩	資料として提供
コタケネズミ、ハダカデバネズミ、上野動物園休園中の様子	6分30秒	上野	ズーネットBB配信用
アオウミガメ	1分32秒	葛西	ズーネットBB配信用
ツチブタ	1分56秒	上野	ズーネットBB配信用
レッサーパンダ	2分11秒	多摩	ズーネットBB配信用
井の頭自然文化園休園中の様子	2分31秒	井の頭	ズーネットBB配信用
カリフォルニアアシカ、ジャイアントパンダ、スマトラトラ	6分25秒	上野	ズーネットBB配信用
テングダイ	1分34秒	葛西	ズーネットBB配信用
アジアゾウ アマラ引越し	2分49秒	多摩	ズーネットBB配信用
キリン親子、ニホンザル、上野動物園再開園	6分27秒	上野	ズーネットBB配信用
オカピ、見島牛	3分20秒	上野	ズーネットBB配信用
トビハゼ、プレイス	2分51秒	葛西	ズーネットBB配信用
カピバラ	2分23秒	井の頭	ズーネットBB配信用
紅海水槽	1分56秒	葛西	ズーネットBB配信用
アジアゾウ アコ、ターキン	4分22秒	多摩	ズーネットBB配信用
コサンケイ、カバ	3分10秒	上野	ズーネットBB配信用
アカシュモクザメ、サメ水槽、マダコ	5分36秒	葛西	ズーネットBB配信用
パンダのもりオープン	2分35秒	上野	ズーネットBB配信用
ニシキエビ、掃除魚	2分52秒	葛西	ズーネットBB配信用
ムフロン、ライオン	3分40秒	多摩	ズーネットBB配信用

内 容	時間	園名	主な使用目的
バイソン	1分56秒	上野	ズーネットBB配信用
カモシカ、シャモア	2分58秒	多摩	ズーネットBB配信用
オルネートカウフィッシュ	1分34秒	葛西	ズーネットBB配信用
レッサーパンダ、ペリカン、アジアゾウ 親子公開	4分49秒	上野	ズーネットBB配信用
スマトラトラ ショウヘイ	1分46秒	多摩	ズーネットBB配信用
ホワイプルームドアナモネ	1分20秒	葛西	ズーネットBB配信用
オランウータン、動物脱出対策訓練	3分48秒	多摩	ズーネットBB配信用
井の頭の野鳥	2分18秒	井の頭	ズーネットBB配信用
ニホンアナグマ、コールドック	1分52秒	井の頭	ズーネットBB配信用
ニホンザル	1分56秒	上野	ズーネットBB配信用
インドサイ ゴボン搬入	2分20秒	多摩	ズーネットBB配信用
ヤギ	22秒	井の頭	Twitter用
アムールトラ	22秒	多摩	Twitter用
カリフォルニアアシカ、スマトラトラ、 ニホンザル、ホッキョクグマ	2分37秒	上野	Twitter用
イタチザメ	22秒	葛西	Twitter用
オカピ、キリン、タンチョウ、ホッキョク グマ、ヤマアラシ、見島牛	2分45秒	上野	Twitter用
アジアゾウ アルンの成長	14分23秒	上野	ズーネット配信用
ジャイアントパンダ発情関連	1分5秒	上野	ズーネット配信用

(3) 広報用資料の制作

動物園・水族園の広報発表時の写真資料に加え、ビデオ映像を撮影・制作し、提供した。

内 容	時間	園名	主な使用目的
ジャイアントパンダ (4月14日)	2分56秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ (4月28日)	2分13秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ (5月12日)	2分34秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ (5月26日)	3分5秒	上野	報道発表資料

内 容	時間	園名	主な使用目的
ジャイアントパンダ (5月28日)	30秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ (6月9日)	3分14秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ (6月10日)	29秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ (6月23日)	3分16秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ (7月14日)	2分56秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ (7月28日)	3分14秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ (8月4日)	2分45秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ (8月24日)	2分6秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ (9月7日)	2分28秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ (9月15日)	2分52秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ (9月29日)	3分10秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ (10月13日)	3分6秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ (10月27日)	3分	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ (11月10日)	3分25秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ (11月25日)	2分50秒	上野	報道発表資料
アジアゾウ アルン命名 (11月26日)	1分50秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ (12月8日)	2分37秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ (12月22日)	2分59秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ (1月13日)	3分22秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ (2月2日)	3分13秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ (2月16日)	2分50秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ交尾 (3月6日)	30秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ返還延期 (3月26日)	55秒	上野	報道発表資料

〔4〕市民・団体との協働事業

1. ボランティアとの協働

園内で展示動物の解説等や入園者案内等のボランティア活動を行う「東京動物園ボランティアーズ (TZV)」(活動場所：上野動物園、多摩動物公園、井の頭自然文化園、登録者数724名)と「東京シーライフボランティアーズ (TSV)」(活動場所：葛西臨海水族園、登録者数135名)は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、年間を通じて入園者に対面する活動は休止とした。開園期間中は感染対策を取りながら可能な範囲で管理作業等にあたってもらうとともに、オンライン研修の開催など、各団体の運営を支援した。通常の活動が停止しているため、新規会員の募集は見送った。

「恩賜上野動物園樹木美化ボランティア」は園内での活動をすべて見送ったが、「NPO法人樹木・環境ネットワーク」は限られた時期ではあったが多摩動物公園で樹木や花壇等の管理活動を行った。

(1) ボランティア会員を対象とした研修会

園名		内容	参加者数
TZV	井の頭	いきもの広場の整備について	62名
TZV TSV	上野 多摩 井の頭 葛西	オンライン講座「動物園で期待されるボランティア活動について」、「動物を目の前にして伝えられる情報の再確認」、「動物園での保全活動最新情報」、「動物に関する本の話」	YouTube 動画配信 (限定公開)
TSV	葛西	西なぎさ観察、Zoom研修(東京湾の深海魚、世界の海ガイド、マグロの話、クラゲの話、エビとカニ、フジツボ、オスとメスの話、等)	180名

(2) ボランティアとの協働による教育活動等

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、各園入園者に対する対面での教育普及活動は行わなかった。

2. サポーター事業

個人及び団体、法人等から資金的支援を得て、都立動物園における動物飼育環境の改善に資するとともに、「動物園サポーター」として登録し、市民の動物園事業への理解と参画意識を促進した。

(1) 動物園サポーターの登録状況

園名	個人 (大人) 1口：10,000円	個人 (大学生以下) 1口：5,000円	子供 サポーター 1口：500円	法人 (団体) 1口：50,000円	金額
上野	376名 505口	9名 10口	4名 8口	6法人 8口	5,504,000円
多摩	162名 228口	4名 5口	2名 2口	4法人 6口	2,606,000円
葛西	23名 31口	2名 4口	0名 0口	3法人 3口	480,000円
井の頭	58名 76口	1名 1口	4名 5口	3法人 12口	1,347,234円*
合計	619名 840口	16名 20口	10名 15口	16法人 29口	9,937,234円

*1口未満の寄付を含む

(2) サポーターを対象とした園内見学等の催物（サポーターズデイ）等の実施

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、動物園・水族園の園内見学等の催物は休止した。

(3) サポーター資金による飼育展示等の改善

園名	実施事項
恩賜上野動物園	①アジアゾウ給餌機器等導入 ②アジアゾウ放飼場脱出防止鎖等修繕 ③アナグマ動物舎緑化 ④エゾヒグマ動物舎緑化 ⑤エゾヒグマ用パークチップ敷設 ⑥キリン放飼場整備用火山礫敷設 ⑦キリン用川砂敷設 ⑧コツメカワウソ用動物舎緑化 ⑨子ども動物園牧場エリア砂敷設 ⑩子ども動物園健康管理用機器設置 ⑪サル舎・猛禽舎止まり木設置 ⑫スマトラトラ用遊具設置 ⑬スマトラトラ雨除け用休息台設置 ⑭ゼニガタアザラシ放飼場自然繊維マット設置 ⑮ツキノワグマ動物舎緑化 ⑯ツキノワグマ用パークチップ敷設 ⑰ハダカデバネズミ用飼育用具導入

	<ul style="list-style-type: none"> ⑱ヒガシクロサイ用川砂敷設 ⑲フォッサ用デジタルフロアスケール導入 ⑳ホッキョクグマ用遊具設置 ㉑マレーグマ用バークチップ敷設 ㉒両生爬虫類展示水槽研磨
多摩動物公園	<ul style="list-style-type: none"> ①アフリカゾウ用山砂敷設 ②オランウータン用加湿器設置 ③オランウータン用中古毛布導入 ④オランウータン用遊具設置 ⑤家畜馬用砂利敷設 ⑥サーバル放飼場遊具設置 ⑦チーター・ライオン用爪とぎ樹木設置
井の頭自然文化園	<ul style="list-style-type: none"> ①オオコウモリ用リハビリケージ設置 ②シカ用火山礫敷設 ③シカ用扇風機設置 ④ミーアキャット展示窓改善 ⑤ミニブタ用防寒着導入 ⑥モルモット用ヒーターマット設置

3. 関係団体への協力

(1) 国際自然保護連合への協力

国際自然保護連合（International Union for Conservation of Nature and Natural Resources 略称IUCN）の委員会である種保存委員会（Species Survival Commission 略称SSC）の保全計画専門家グループ（Conservation Planning Specialist Group 略称CPSG）へ、事業援助のため寄付を行った。

(2) 関係団体への協力

動物園事業に関係する20の団体に加入し、情報の交換や募金活動への協力を行った。

[加入団体]

会員区分	団 体 名	会員区分	団 体 名
法 人 会 員	(公財)世界自然保護基金ジャパン	団 体 会 員	(公財)日本自然保護協会
〃	(公財)日本鳥類保護連盟	〃	日本霊長類学会
賛 助 会 員	(公財)山階鳥類研究所	〃	(一社)日本応用動物昆虫学会
〃	(一社)日本生態学会	〃	(一社)日本環境教育学会
〃	日本動物心理学会	〃	(一社)日本昆虫学会
〃	(公社)日本造園学会	〃	日本鱗翅学会
維 持 会 員	(公社)日本動物園水族館協会	〃	日本鳥学会
〃	(公財)日本博物館協会	〃	日本爬虫両棲類学会
団 体 会 員	(一社)日本哺乳類学会	〃	(一社)日本生物教育学会
〃	(公財)日本動物学会	〃	日本動物園水族館教育研究会

4. 基金事業

(1) ジャイアントパンダ保護サポート基金の運営

募金やドネーション商品からの寄付、企業からの協賛金を積み立て、ジャイアントパンダ保護に向けた普及啓発活動や上野動物園での飼育環境の向上、東京都と中国が共同で進めている繁殖研究プロジェクトへの支援に活用した。

① 収入の状況

項 目	金 額	内 容
寄付金	12,689,428円	①園内外募金箱への募金 ②SAVE the PANDAパートナーズ ほか
企業協賛金	1,057,404円	①園内広告協賛 ②キャラクターライセンス、ロゴマーク使用 ほか

ドネーション商品 売上金からの寄付金	13,671,879円	オリジナルドネーション商品売上金額の5% （「ありがとうシャンシャン」CD/DVDは80%） アイテム数：62点（ぬいぐるみ、お菓子ほか） 売上点数：95,564点
-----------------------	-------------	---------------------------------------------------------------------------------------------

② 基金活用の状況

使 途	活用内容	活用金額
ジャイアントパンダの保護に向けた普及啓発活動	シャンシャン3才記念企画、パンダのもりパンフレットの作成、「ありがとうシャンシャン」CD/DVD発売、基金プレート看板の東園からパンダのもりへ移設等	5,179,000円
上野動物園におけるジャイアントパンダの飼育環境の向上	パンダのもりにおける飼育環境の充実（休息用洞穴、採血盤、木組み、台座、体重計設置等）	18,708,360円
東京都と中国野生動物保護協会が共同で進める国際的なパンダ保護活動	東京都と中国の共同繁殖プロジェクト支援（東京都へ寄付）	10,000,000円

③ 基金残高

基金残高	136,472,636円（令和3年3月31日現在）
------	---------------------------

④ ジャイアントパンダ保護サポート基金運営委員会の開催

基金を適正に管理し事業に活用するため、ジャイアントパンダ保護サポート基金運営委員会を開催した。

〔委員・顧問〕（令和3年3月31日現在）

役 職	氏 名	職 名
委 員 長	菅 谷 博	ミュージアムパーク茨城県立自然博物館名誉館長
副 委 員 長	早 川 剛 生	公益財団法人東京動物園協会理事長
委 員	湯 川 れい子	音楽評論家・作詞家
委 員	二 木 忠 男	上野観光連盟会長
委 員	今 村 保 雄	東京都建設局次長
顧 問	黒 柳 徹 子	女優・ユニセフ親善大使

[運営委員会]

回	開催月日	議 題
第1回	7月22日	(1) 令和元年度決算報告について (2) 現在の飼育状況について (3) ジャイアントパンダ保護サポート基金運営委員会設置要綱の一部改正(案)について (4) 令和2年度基金進捗状況について
第2回	2月15日	(1) 令和2年度基金進捗状況について (2) 令和3年度基金事業・予算(案)について

(2) 東京動物園協会野生生物保全基金の運営

野生生物の保全に積極的に取り組む個人・団体の支援を目的として、助成対象活動を公募し、審査のうえ、助成金交付を行った。

令和3年度の助成対象活動募集にあたっては、協会の積極的な保全活動推進のために、協会の定めたテーマ(「都立動物園・水族園における希少野生生物の域外保全活動」)に基づき、協会のパートナーとして3年間の継続した保全活動に取り組む「東京動物園協会保全パートナー部門」を新設し、従来の3部門(保全活動・調査研究・普及啓発)を「一般部門」として広く応募を募った。

基金PR活動としてポスターとチラシを作成して全国の大学・博物館・研究施設・NPO及び理科教育に関心の高い高等学校等に送付して本助成制度を広くアピールを図った。また、クレジットカード決済によるオンライン寄付システムの運用により幅広く寄付を募った。

① 助成交付実績

[令和2年度]

*令和2年2月1日～2月29日公募。令和元年度内に助成対象を決定し、令和2年度に助成金を交付。

*新型コロナウイルス感染症の影響により活動に支障の出た助成対象者に、最長で令和4年3月31日までの活動期間の延長を認めた(承認件数:4件)。

助成対象活動名	部門	助成対象者	交付額
湿性草原に棲む潜行性鳥類の生息状況推定方法の開発:繁殖期のサギ類と越冬期のクイナ類への応用	調査研究	特定非営利活動法人 おおせっからんど	1,000,000円
日本産トカゲモドキ類の食性の解明	調査研究	栗田 隆気	995,222円
ボルネオ島ダナムバレイ保護区に生息する野生オランウータンの密度調査	調査研究	特定非営利活動法人 日本オランウータン・リサーチセンター	1,000,000円
トウキョウトガリネズミの繁殖生態に関する研究	調査研究	河原 淳	910,000円

絶滅危惧種イタセンパラと共に生きる	普及啓発	愛知県立一宮高等学校 生物部	479,000円
スズメにおける雄子の死亡とその内分泌学的要因	調査研究	加藤 貴大	1,000,000円
齢構造と遺伝的多様性からみたヤエヤマハラブチガエルの保全生態学的研究	調査研究	戸金 大、秋田 耕佑、阿南 一穂	999,600円
絶滅が危惧されるシロハラサギの保護施設のブータン王国飼育者の飼育放鳥技術の向上	保全活動	シロハラサギ保全チーム	997,540円
コンゴ民主共和国ルオー学術保護区とその周辺地域における野生ボノボの保全活動	保全活動	特定非営利活動法人 ビーリア（ボノボ）保護支援会	909,700円
希少亜種ダイトウコノハズクの利用環境の解析による採餌戦略解明の試み	調査研究	ダイトウコノハズク保全研究グループ	995,400円
三方五湖の生態系保全に向けた研究—ヒシの被覆面積とブルーギル個体数の関係性から—	調査研究	福井県立若狭高等学校 SSH生物班	499,800円

② 収入の状況

寄付金	5,994,802円	企業・個人からの寄付
-----	------------	------------

③ 基金残高

基金残高	105,758,567円（令和3年3月31日現在）
------	---------------------------

④ 東京動物園協会野生生物保全基金審査委員会の開催

助成対象活動の選定を適正かつ公正に行うため、東京動物園協会野生生物保全基金審査委員会を開催し、助成対象活動を選定した。

〔審査委員会〕 ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、審査委員会は書面開催とした。

書面締切	議 題
3月25日	令和3年度助成対象活動選定について

⑤ 助成対象活動選定結果

*令和3年2月1日～2月28日公募。2年度内に助成対象を決定し、助成金は3年度に交付。

[東京動物園協会保全パートナー部門]

*助成金額上限：150万円/年、助成件数：1件

助成対象活動名	助成対象者	交付額
希少鳥類における域外保全の推進にむけた繁殖生理生態の解明——ライチョウとハシビロコウを中心に	岐阜大学応用生物科学部 動物繁殖額研究室 (動物園生物学研究センター)	1,500,000円

[一般部門]

*助成金額上限：100万円/年、助成件数：3部門合計10件程度

助成対象活動名	部門	助成対象者	交付額
コンゴ民主共和国ルオー学術保護とその周辺地域における野生ボノボの保全活動	保全活動	特定非営利活動法人 ビーリア (ボノボ) 保護支援会	929,500円
ヤエヤマハラブチガエルの年齢構造と遺伝学的情報に基づく地域個体群の保全優先度の検討	調査研究	戸金 大、秋田 耕佑、阿南 一穂	999,800円
トウキョウトガリネズミの繁殖生態に関する研究	調査研究	河原 淳	570,000円
近年増加する記録的豪雨がもたらす、希少亜種ダイトウコノハズクへの影響の解明	調査研究	ダイトウコノハズク保全研究 グループ	994,000円
バングラデシュ北東部におけるスナドリネコと住民との軋轢緩和	保全活動	鈴木 愛	999,000円
日本で最も絶滅に近い鳥オガサワラカラヒワの絶滅回避のためのカメラセンサス調査	調査研究	一般社団法人 Islands care	1,000,000円
給餌の影響がなくなった野外コウノトリの繁殖および分布の変化に関する研究	調査研究	伊崎 実那	931,200円
茂原公園のカメについて学ぼう	普及啓発	千葉県立長生高等学校	679,000円
オキナワトゲネズミ・ケナガネズミの域外保全を目的とした基礎研究	調査研究	特定非営利活動法人 どうぶつたちの病院 沖縄	1,000,000円
刺し網漁による海鳥混獲の実状把握 ～ウミガラスとエトピリカの保全を目指して～	調査研究	一般社団法人バードライフ・ インターナショナル東京	999,000円

⑥ 「東京動物園協会野生生物保全基金」 成果報告会

新型コロナウイルス感染拡大防止のために昨年度開催を見送った平成30年度の助成対象活動、および令和元年度における助成対象活動について、成果報告動画を都立動物園・水族園公式サイト「東京ズーネット」 および「東京ズーネットYouTubeチャンネル」 で公開した。

公開月日	内 容
3月13日	<p>平成30年度助成対象活動 動画1 「セマルハコガメの保全遺伝学研究」 鈴木 大 氏</p> <p>平成30年度・令和元年度助成活動 動画2 「キリンにおける繁殖生理の非侵襲的調査法の確立と性成熟年齢の解明」 「キリンの国内飼育下個体群における繁殖生理状態把握に関する一斉調査」 岐阜大学応用生物科学部動物繁殖学研究室（動物保全繁殖学）</p> <p>令和元年度助成対象活動 動画3 「コンゴ民主共和国ルオー学術保護区とその周辺地域における野生ボノボの保全活動」 特定非営利活動法人ビーリア（ボノボ）保護支援会</p> <p>動画4 「人と共存していく最高次捕食者——希少亜種ダイトウコノハズクの採餌生態の解明」 ダイトウコノハズク保全研究グループ</p> <p>動画5 「和歌山市周辺地域（里山・都市・離島）の生息環境による生物比較調査」 和歌山県立向陽中学校理科部</p> <p>動画6 「東京都町田市に生息するムササビ孤立個体群の保全に向けた、生息数推定および分布地域特定の試み」 町田ムササビ保全研究グループ</p> <p>動画7 「琉球列島固有種ケナガネズミの普及啓発」 ケナガネズミ研究グループ</p> <p>動画8 「ボルネオオランウータンのメスの妊娠・出産と果実生産量に関する基礎的研究」 久世 濃子 氏</p>

〔5〕利用者サービス

1. 入場券の売改札及び利用案内・園内サービス

(1) 入場券の売改札

入場券の売改札、年間パスポートの販売を行った。

【入園者数】

(単位：人)

区 分		上野	多摩	葛西	井の頭	合計	摘 要		
有 料	個 人	一 般	385,576	215,911	188,302	204,492	994,281		
		中学生	786	916	1,440	95	3,237		
		65歳以上	27,069	15,336	6,787	16,783	65,975		
		計	413,431	232,163	196,529	221,370	1,063,493		
	団 体	一 般	2,538	8,020	4,783	1,359	16,700	20人以上	
		中学生	1	1	14	1	17	〃	
		65歳以上	41	99	109	17	266	〃	
		計	2,580	8,120	4,906	1,377	16,983		
	小 計		416,011	240,283	201,435	222,747	1,080,476		
	無 料	個 人	小学生以下	91,984	133,553	117,257	127,608	470,402	
			中学生	1,657	1,539	5,439	2,864	11,499	都内在住在学习
			計	93,641	135,092	122,696	130,472	481,901	
団 体		幼 児	0	12,925	0	4,671	17,596		
		小学生	0	15,582	0	4,946	20,528		
		中学生	0	2,482	0	159	2,641		
		計	0	30,989	0	9,776	40,765		
特 免		13,293	12,240	6,239	13,261	45,033	身体障がい者等		
その他		3,054	4,148	5,765	4,994	17,961	無料開園日等		
小 計		109,988	182,469	134,700	158,503	585,660			
合 計		525,999	422,752	336,135	381,250	1,666,136			

【年間パスポート販売状況】

園名	販売実績	摘要
恩賜上野動物園	9,966枚	一般2,400円、65歳以上1,200円
多摩動物公園	3,939枚	〃
葛西臨海水族園	1,085枚	一般2,800円、65歳以上1,400円
井の頭自然文化園	7,588枚	一般1,600円、65歳以上 800円
合計	22,578枚	

(2) 有料施設等の占用等の申請受付と料金徴収

園内での写真撮影や集会所の使用申請の受付事務と入園料、使用料、占用料の徴収及び東京都への納付事務を行った。

【入園料金の徴収】

園名	収納額	摘要
恩賜上野動物園	152,917,960円	大人600円、中学生200円、65歳以上300円
多摩動物公園	128,088,960円	〃
葛西臨海水族園	134,906,750円	大人700円、中学生250円、65歳以上350円
井の頭自然文化園	70,842,370円	大人400円、中学生150円、65歳以上200円
合計	486,756,040円	

【占用料・使用料の徴収】

園名	収納額	摘要
恩賜上野動物園	14,802円	占用料（写真撮影等）
多摩動物公園	6,574円	〃
葛西臨海水族園	20,500円	〃
井の頭自然文化園	209,000円	占用料・使用料（資料館・童心居）
合計	250,876円	

(3) 利用案内・園内サービス

園内における利用者案内、迷子相談、園内放送、救急救護、身障者用車椅子の貸出等のサービスや拾得物・遺失物対応を実施したほか、園外からの電話による問い合わせに対応、園内案内図、案内板の更新を行った。

【園内利用案内】

(単位:件)

園名	迷子相談	園内放送	入園者救護	車椅子貸出	遺失物届	拾得物届
上野	14	1,345	98	225	111	486
多摩	12	1,951	91	79	195	1,850
葛西	29	798	45	54	154	701
井の頭	46	497	110	25	156	769
合計	101	4,591	344	383	616	3,806

2. 園内の保安及び環境美化

(1) 園内巡回警備

巡回警備による整理・誘導、防犯等、入園者の安全に配慮して実施した。

(2) 園内清掃及び廃棄物搬出

園内美化を図り、園内の清掃及び収集したゴミ等の廃棄物を園外へ搬出した。また、搬出した寝糞等は専門施設においてリサイクルし、肥料化した。

3. 利用促進・PR活動

新型コロナウイルス感染症対策として臨時休園、イベント自粛、事前予約制による入園制限と、積極的な集客施策の実施が困難な状況が続いたが、各園の使命や魅力の発信、入園者へのサービス向上等を重点化し、積極的に実施した。ウェブサイトやSNSによるデジタルコンテンツの展開を強化するとともに、当協会が行っている野生生物保全に関する取り組みを発信することで、都立動物園・水族園の認知を高めファンを増やす取り組みを行った。

【Visit Zoo事業】

実施項目	内 容
春季施策	<ul style="list-style-type: none"> 各園で開催を予定していたが臨時休園のために開催できなかった4月19日「飼育の日」イベントについて、準備していた「飼育係の仕事」に関するパネル展のコンテンツや、臨時休園中でも業務に励む飼育係の姿などを、各園のTwitterアカウントがハッシュタグ「#飼育の日」と「#東京都立動物園・水族園」をつけてツイートした。 「飼育の日」をより多くの方に知っていただき、飼育係の仕事への理解、動物園・水族館への関心を高めることを目的として、(一社)日本記念日協会に、4月19日「飼育の日」の記念日登録を申請し、多摩動物公園が発案した記念日として4月12日付で認定登録された。
夏季施策	<p>従来は開園時間延長イベントに係る集客促進を行っていたが、イベント自粛を受けて、若年層を主なターゲットとした新たなSNSによる情報発信施策として、都立動物園・水族園の公式Instagramを7月20日に開設した。動物だけでなく、ギフト・フード店等の利用者サービスも含め、園内や事業の魅力を伝える動画の投稿を行った。</p>
秋季施策	<ul style="list-style-type: none"> 自宅でも楽しめるコンテンツとして、葛西臨海水族園において都立動物園・水族園初のVR「潜ってみよう！水族園VR！」を10月10日に公開した（協力：一般社団法人VR革新機構）。VRコンテンツ内では「園長を探して、園長のとっておきトークを聞こう！」と題し、園長が出演する「とっておきトーク」映像にリンクするなど、隠れた見どころスポットを展開した。 4園から選定した12種類の動物写真とその紹介文を載せた「公益財団法人東京動物園協会カレンダー」を、都内の国立・都立・私立の小学校および特別支援学校（約1,400校）に配布した。
冬季施策	<ul style="list-style-type: none"> 観光客向けの「都立動物園・水族園パンフレット」のリニューアルを行った。デザインを一新し、観光案内所で配架しやすく手に取りやすい形状に変更するとともに、ギフト・フード店等の利用者サービス情報を拡充、あわせて各園の新施設の情報も追加した。 1月9日から1月14日までの間、札幌市主催の「環境広場さっぽろ2020バーチャルツアー」に出展し、日本産動物の保全活動に関するパネル展示を3Dのバーチャル空間上で行い、各園Twitterにて当該イベント告知を行った。

【利用促進・PR】

事 項	摘 要
ウェブサイト	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェブサイト「東京ズーネット」を通じて、動物の最新ニュースや動画、イベント情報等を多くの人に向けて発信した。 ・新型コロナウイルス感染拡大防止のためのイベント休止又は中止、各園の臨時休園について、遅滞なくウェブサイト及び各園Twitterアカウントにより情報を発信して周知した。 ・『上野動物園百年史』や葛西臨海水族園の機関誌「SEALIFE NEWS」等、都立動物園・水族園に関する書籍と雑誌をスマートフォンでも閲覧可能な電子書籍「どうぶつえんライブラリー」を整備した。 ・高画質のVR（バーチャルリアリティ）映像により、自宅等でも動物園・水族園内の見どころや生き物の観察を楽しめるウェブコンテンツ「東京 Zoovie Maps & Tours」を公開した。 ・上野動物園のオンライン企画「花ひらけパンダの未来——ありがとうシャンシャン」の特設ページを公開し、Twitter等を活用した企画内容を発信した。 ・高画質のVR（バーチャルリアリティ）映像により、葛西臨海水族園の本館や淡水生物館を探検するように楽しむことのできる「潜ってみよう！水族園VR」を公開した。 ・上野動物園のジャイアントパンダ情報サイト「UENO-PANDA.JP」では、パンダに関する情報を掲載したほか、ジャイアントパンダ保護サポート基金についても広くアピールした。 ・Twitterによる4園の情報発信を通じて、即時性のある情報をタイムリーに配信した。 ・YouTube上の「東京ズーネット公式チャンネル」においておもにジャイアントパンダの最新情報を動画を通じて配信した。 ・Instagramを4園共通アカウントとして開設し、園内や事業の魅力を伝える動画像の投稿を行った。
広告物	<ul style="list-style-type: none"> ・東京都内の幼稚園・保育園へ配布する携帯型クーポン冊子「ハッピープレゼントクーポン東京版 冬休み号」に、4園をPRするための広告を掲出した。 ・新宿駅西口の行政情報掲示板（高さ2.5メートル幅5.3メートルの屋外広告媒体）に、4園の生物多様性保全活動をテーマとした広告ビジュアルを制作し、掲出した。 ・上野動物園では、地元の商業施設や観光連盟、鉄道各社と連携し、シャンシャンがジャイアントパンダの未来を明るく照らす存在となることを願う企画「花ひらけパンダの未来～ありがとうシャンシャン」において、

事 項	摘 要
	<p>企画にちなんだポスター等を掲出した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多摩動物公園では、12月17日から4月13日まで、京王動物園線車内に「干支展バーチャルツアー」の中吊り広告を掲出した。 ・葛西臨海水族園では、3月22日から30日まで、水族館等競合施設の最寄り駅を含む6路線33駅に駅貼りポスターを掲出した。 ・井の頭自然文化園では、最寄り駅前の大型ビジョンでのPR動画放映を継続して実施した。また、12月に当該PR動画をリニューアルし、若年層を主なターゲットとして園内の楽しみ方を発信した。
<p>そ の 他</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・繁忙期における休園日の臨時開園（上野3日、多摩2日、葛西4日、井の頭4日）を実施した。 ※その他の繁忙期に予定していた臨時開園（上野5日、多摩4日、葛西2日、井の頭2日）、開園時間延長（上野12日、多摩12日、葛西14日、井の頭7日）については、新型コロナウイルス感染拡大防止のための臨時休園期間となったため中止した。 ・「雨の日サービス」として、各園のTwitterを利用して展示やイベントに関する予定変更の情報、雨の日の展示動物の様子や「雨の日ならではの楽しみ方」等に関する情報発信を実施した。 ・訪日入園者の動向を把握するため、Wi-Fi電波観測による入園者国別推計調査を実施した。 ・訪都旅行者向けに、都立動物園・水族園紹介パンフレット「東京だから野生に会える 都立動物園・水族園ガイドブック」（英語・中国語[繁体・簡体]・韓国語及び日本語）を東京都観光案内所等で配布した。 ・例年通り福祉施設、ホテル等近隣施設へ園内情報やガイドブックをダイレクトメールで158件送付した。

4. 広報広聴

園内動物の繁殖や催物等についての広報発表、取材対応のほか苦情や意見への対応を行った。

(1) 主な広報発表

園名	発表日	件名
上野	5月28日	シャンシャン3歳記念企画を実施します
	8月7日	新ジャイアントパンダ舎「パンダのもり」を9月8日(火)から一般公開します
	10月31日	アジアゾウが生まれました
	11月17日	スマトラトラの「ミンピ」を受け入れます
	3月6日	ジャイアントパンダの交尾行動を確認しました
	その他、合計22件	
多摩	7月29日	レッサーパンダが生まれました！
	9月2日	整理券予約システムによる秋の繁忙期の入場制限について
	11月5日	オランウータンが生まれました！
	2月10日	野生生物保全センター オンライン講演会「野生動物を救護する～動物園にできること～」開催
	3月20日	札幌市円山動物園と多摩動物公園との連携・協働に関する協定の締結について
	その他、合計28件	
葛西	6月12日	上野動物園と葛西臨海水族園の再開園に伴う整理券予約システムによる入場制限について
	9月24日	オウサマペンギンのヒナが2羽育っています！
	9月24日	開園記念日特別公開「潜ってみよう！水族園VR」
	12月24日	教員対象「学校での水の生き物飼育オンライン相談会」参加者募集！
	1月28日	小学5、6年生対象「集まれ！汐っ子（しよっこ）たち～くらべてみつけて 魚のひみつ～」の参加者を募集！
	その他、合計9件	
井の頭	7月2日	アマミトゲネズミの飼育を開始します
	2月10日	都立動物園・水族園合同企画 身近な水辺保全講演会「水辺の植物・動物・人のつながりを考える」参加者募集！
	合計2件	

(2) 苦情・意見への対応

園内に設置した意見箱やウェブサイト「東京ズーネット」に寄せられた苦情・意見について、関係部署へ周知するとともに対応策を検討し、園内環境やサービス等の改善に努めた。また、データベースを活用しサービスの改善・充実を図ったほか、各園に寄せられた主なご意見ご要望およびそれに対する回答と対応について、月毎にウェブサイト「東京ズーネット」への掲載を行った。

〔6〕安全・安心の確保

入園者、職員の新型コロナウイルス感染防止対策及び飼育体制の維持に取り組むとともに、命を預かる現場としての安全確保や事故発生抑止、事業継続計画の推進、情報対策の強化等危機管理対策を拡充し、全職員の危機管理意識の向上に努めた。また、一昨年に発生した多摩動物公園における職員死亡事故を受けての再発防止対策について、引き続き最優先課題として取り組んだ。

（1）新型コロナウイルス感染症対策

新型コロナウイルス感染症の対策については、当協会内に、「新型コロナウイルス感染症対策本部」を設置し、東京都等からの情報収集、各園状況の把握、対応策の決定・指示等を迅速に実施している。

各園においては、園長の指揮のもと、マスクの着用、不特定多数が触れる箇所の消毒や手洗い励行の呼びかけ、日々の体調把握等の職員の感染予防に努めるとともに、時差出勤や在宅勤務、執務室の分散、係内チーム分け勤務、オンライン会議等の実施により、万が一感染者が発生した場合であっても、飼育体制維持に可能な職員を確保しうる作業体制を構築し業務を遂行した。また、実際に複数の職員の感染及び濃厚接触者の発生を想定しての事業継続訓練も実施した。

再開園にあたっては、上野動物園、葛西臨海水族園では全ての開園日、多摩動物公園では秋の一部繁忙日を事前予約制とするとともに、入園者には、一か所に長時間立ち止まらないことや展示のガラスに触れないこと等の観覧ルールを呼びかける「新しい動物園・水族園の楽しみ方」の呼びかけを行っている。

引き続き、協会をあげて新型コロナウイルス感染症対策に取り組む。

（2）動物事故再発防止対策

令和元年8月に多摩動物公園インドサイ舎において発生した飼育職員の死亡事故を受け、動物事故再発防止PTによる再発防止策の検討に引き続き取り組み、8月に以下の内容の「動物事故再発防止対策」をまとめた。

【動物事故再発防止対策】

区分	対策	具体的内容
特定動物等のより安全な管理方法の構築	飼育管理のルール化	<ul style="list-style-type: none"> 種毎に危険度に応じたルールを設定し、同場に関するルールを定める。 飼育作業におけるリスクアセスメントを実施し、それを踏まえた「安全作業マニュアル」を作成する。
職員が安全に作業できる施設・設備の整備	物理的遮蔽	<ul style="list-style-type: none"> 管理通路にライン塗装し、通常の作業ではラインより動物舎側に立ち入らないこととする。 スクイーズケージや枠場の導入など、物理的遮蔽手段を検討する。
	職員の状況把握のための取り組み	<ul style="list-style-type: none"> カメラによるモニターシステムを導入する。 複数の動物舎を担当する職員がどこで作業をしているか把握するための作業スケジュール表を作成する。
	非常時連絡システムの導入	<ul style="list-style-type: none"> 転倒時通報機能や音声発信機能を有したスマートウォッチを順次導入する。 既存のPHSに位置情報通知機能等を追加する。
職員の安全を確保	作業時の安全確保	<ul style="list-style-type: none"> インドサイ舎の飼育体制について、2名の担当者を置いた。

するための取り組み及び体制の確立	保体制	・班の担当する飼育作業を共同で行う「グループ制」もしくはリスクの高い作業を抽出し、班の枠を超えた2～3名の職員が対応する「ユニット制」の導入を検討する。
	施設改修や補修の計画的実施	・毎年作成している施設改修の全体計画に、随時提出される個別の工事・作業依頼を反映させ、柔軟に施工準の見直しを行うこととする。
	引継ぎの体系化	・引継ぎ書類の内容を統一化し、それぞれの動物種の課題・懸案事項を着実に引き継げる体制とする。
職員の安全意識の向上	職員の情報共有等の仕組み	・職員の作業予定や体調など、班員同士が情報共有を図るため「班ミーティング」を毎日決まった時間に実施することをルール化した。
	ヒヤリ・ハット事例の収集と共有	・ヒヤリ・ハット事例の収集と共有のルールを策定し、事故防止に活用する仕組みを構築する。
	作業の安全性の客観的な検証	・飼育管理のルール化において実施する飼育作業のリスクアセスメントにおいて定めるリスク提言措置について、年に1回実施状況確認を行う。
	継続した安全意識の確保	・安全意識向上につながる研修を毎年実施する。 ・事故の発生した8月25日を「安全の日」と定め、黙とうや訓示を実施し、事故の記憶の風化を防止する。

今後は、この「動物事故再発防止対策」を危機管理委員会の下での「動物事故・感染症対策部会」において定期的に進捗状況を確認し、安全管理の徹底を図る。

(3) 事業継続 (BCP)

震災発生を想定し、参集経路の確認と参集者による災害対策本部立上げを目的とした参集訓練を実施した。令和2年度には新たに、コロナ下においても着実に危機管理対応力を向上させるため、参集訓練の参集者により本社及び各園に設置した災害対策本部間において、オンラインでの本部運営訓練を実施し、報告・指示命令系統の連携強化を行った。

その他、安否確認システムをスマートフォンのアプリに対応した「安否コール」に入替を行い、全職員を対象に安否確認訓練を実施し、災害時の対応力を向上させたほか、震災及びテロ対策の初動対応マニュアルの更新を行った。

(4) 災害対策

台風や大雨等の気象警報発令時等には、巡回点検や職員の事務所待機を行い災害時に備えるとともに、被害復旧対応を行った。

また、多摩動物公園において、地震発生によりチーター舎裏の法面が崩れ、放飼場の囲いが破損し、チーター1頭が脱出したという想定により、動物脱出対策訓練を2月に実施した。訓練では、入園者の避難誘導・関係機関への通報・脱出動物の捕獲保護・負傷者救護等を行った。

(5) 情報セキュリティ対策

組織的セキュリティ対策として「サイバーセキュリティポリシー」の改正に向け検討を行った。人的セキュリティ対策では「情報セキュリティ自己点検」「e-ラーニング」「標的型メール訓練」を実施した。技術的セキュリティ対策の強化として、データセンター及び各拠点(園)のネット

ワーク構成をインターネット VPN から IP-VPN に変更する手続きを行った。また、専門業者による「情報セキュリティ外部監査」を多摩、葛西で 10 月に実施した。

(6) 工事等安全衛生対策

上野労働基準監督署より講師を招いて講習会を行い、園内で工事や作業を行う指定店事業者の安全衛生対策の強化を促した。

- 講習項目：・墜落事故、チェーンソー事故、資材落下事故等事例
- ・労働災害防止対策の解説（墜落、感電、酸欠等）
 - ・新型コロナウイルス感染症対策 ほか

(7) 工事等事故防止対策

11月11日に多摩動物公園で発生した墜落事故を受けて、園内作業における事故防止対策の全面的な見直しを行い、各園の全職員及び全受注者に周知徹底を図った。事故防止には、協会職員と受注者が安全管理に対する意識、知識、対策をより一層高め「安全対策が不十分なまま作業に着手してはならない。」という意識を浸透させる必要がある。そのため、協会内共通ルールを定め、全員で遵守・実践することとした。

- 共通ルール：・受発注者の立ち合いによる安全対策の事前確認
- ・安全講習会への積極的な参加
 - ・安全対策10か条の毎回復唱
 - ・担当外職員による注意喚起の制度化
 - ・特記仕様書による事故防止対策指示の強化
 - ・指定店契約時の意識啓発（スローガン作成、事故事例の確認・抽出等）
 - ・事故の重大さに応じた契約解除や発注停止等の制度化

(8) 園内施設・設備の維持管理

① 定常的維持管理

施設や設備を適切に保守し、利用者の安全と快適性を確保するために、以下の園内施設の維持管理業務を実施するとともに、照明設備のLED化及び空調・ポンプ類のインバーター化による電力使用量削減に取り組んでいる。

園名	主要施設	主要維持管理業務
恩賜上野動物園	<ul style="list-style-type: none"> 敷地面積：144千㎡ パンダ舎、ホッキョクグマとアザラシの海、クマ舎、ゾウ舎、アイアイのすむ森等 両生爬虫類館 管理センター 不忍池 	<ul style="list-style-type: none"> 設備更新（水処理、ボイラー、空調、暖房 他） 補修工事（動物舎、漏水、排水、園内不陸 他） 設備保守（機械、水処理、放送、動物脱出防止柵 他） 不忍池水質管理 設備点検 保護管理（植込地、花壇） 危険樹点検対応 他
多摩動物公園	<ul style="list-style-type: none"> 敷地面積：601千㎡（含む七生公園） オランウータン舎、コアラ館等 ライオン園 他 昆虫生態園 丘陵地 	<ul style="list-style-type: none"> 設備更新（水処理、ボイラー、空調、暖房 他） 補修工事（動物舎、漏水、排水、園内不陸 他） 設備保守（機械、水処理、放送、動物脱出防止柵 他） 設備点検 保護管理（植込地、芝生地、花壇） 危険樹点検対応 他
葛西臨海水族園	<ul style="list-style-type: none"> 敷地面積：86千㎡ 水槽数：47 マグロ水槽（2,200t）、ペンギン池 他 ポンプ（水処理用244台、給排水用53台） 	<ul style="list-style-type: none"> 設備補修（冷凍機、水処理 他） 施設補修（水槽、漏水、排水、園内不陸 他） 設備保守（中央監視、水処理、展示システム、排水処理、オゾン設備 他） 設備点検 保護管理（植込地、芝生地、花壇） 危険樹点検対応 他
井の頭自然文化園	<ul style="list-style-type: none"> 敷地面積：116千㎡ 大放飼場 彫刻館 リスの小径 資料館 水生物館 	<ul style="list-style-type: none"> 設備更新（水処理、ボイラー、空調、暖房 他） 補修工事（動物舎、漏水、排水、園内不陸 他） 設備保守（機械、水処理、放送 他） 設備点検 保護管理（植込地、花壇） 危険樹点検対応 他

② 集中的維持管理

設備補修や地球温暖化対策等を行うとともに、ブロック塀対策、ベンチ座板補修等の集中的な修繕を行った。

園名	No.	修繕施設	概要
上野	1	動物舎	猛禽舎塗装補修
	2	照明設備	サイ舎ほか照明設備補修
	3	照明設備	無料休憩所照明設備補修
	4	工作物	ベンチ座板等更新
多摩	1	ブロック塀対策	サービスマン改修
	2	動物舎	アフリカゾウ舎油圧シリンダー補修
	3	工作物	ベンチ座板等更新
	4	樹林	支障木点検及び伐採等樹林地維持業務
葛西	1	建物	洋便器取替ほか補修
	2	建物	休憩所等天井補修
	3	循環設備	各種設備補修
	4	工作物	ベンチ座板等更新
井の頭	1	動物舎	オシドリ舎塗装補修
	2	照明設備	モルモットコーナーほか照明補修
	3	工作物	ベンチ座板等更新
	4	樹林	支障木点検及び伐採等樹林地維持業務

〔7〕 受託業務

1. 恩賜上野動物園ジャイアントパンダ繁殖研究プロジェクトに係る業務受託

東京都からの委託により、都と中国野生生物保護協会の間で締結された「ジャイアントパンダ保護研究実施の協力協定書」に基づく研究プロジェクトについて、上野動物園におけるジャイアントパンダ繁殖研究プロジェクトの進展状況報告書の作成や、中国側の保護資金の使用状況に関する調査を実施した。

項 目	内 容
件 名	恩賜上野動物園ジャイアントパンダ繁殖研究プロジェクトに係る業務委託
業 務 内 容	保護資金の使用状況に係る調査、研究協力プロジェクトの進展状況報告書の作成、中国側との連絡実施業務、実施報告書の作成
期 間	令和2年4月1日～令和3年3月31日 ※令和3年2月1日付の指示書により契約変更 変更後の期間：令和2年4月1日～令和3年2月20日
委 託 金 額	原契約金額 20,113,500円 ※変更契約金額 7,546,000円

項 目	内 容
件 名	ジャイアントパンダ保護研究協力プロジェクトにおける業務の委託に関する年度協定(令和2年度)に基づく委託
業 務 内 容	パンダ(子)の返還補助業務
期 間	令和3年2月19日～令和3年3月31日
委 託 金 額	341,000円

2. 特別天然記念物トキの健康管理及び飼育指導に係る業務受託

例年実施している、佐渡市のトキ保護センター、野生復帰ステーションにおけるトキの定期検診及び飼育指導は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、令和2年度は実施しなかった。

項 目	内 容
件 名	特別天然記念物トキの健康管理及び飼育指導に関する業務委託
業 務 内 容	① 特別天然記念物トキの飼育・管理指導 ② 特別天然記念物トキの定期健康診断 ③ 特別天然記念物トキの疾病時における専門的治療 ④ 特別天然記念物トキの人工増殖の指導 ⑤ トキ類縁種の研究飼育指導
期 間	令和2年4月1日～令和3年3月31日
委 託 金 額	0円 ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、出張を中止。

3. 大島公園動物園動物飼育管理業務委託

東京都大島支庁の委託により、大島公園動物園における展示動物の飼育管理やイベントの対応等を行った。

項 目	内 容
件 名	大島公園動物園動物飼育管理業務委託
業 務 内 容	大島公園動物園の展示動物の飼育及びこれに関する管理業務
期 間	令和2年4月1日～令和3年3月31日
委 託 金 額	43,120,000円

4. 都立動物園等の情報発信強化に係る業務委託

東京都からの委託により、都立動物園等の情報発信強化のため、特設Webページの作成や、電子書籍等の作成と配信を行った。

項目	内容
件名	都立動物園等の情報発信強化に係る業務委託
業務内容	特設Webページ作成等、電子書籍等の作成と配信
期間	令和2年6月5日～令和2年7月31日
委託金額	3,976,500円

5. 都立動物園における5G及び先端技術を活用した事業調査委託

東京都からの委託により、都立動物園・水族園における5G及び先端技術を活用した事業に関する調査・検討、事業実現性の評価、実証実験実施計画案の策定を行った。

項目	内容
件名	都立動物園における5G及び先端技術を活用した事業調査委託
業務内容	都立動物園における5G及び先端技術を活用した事業に関する調査・検討、事業実現性の評価、実証実験実施計画案の策定
期間	令和2年10月21日～令和3年3月19日
委託金額	18,252,300円

6. 都立動物園等における環境学習等に関する新たな手法を用いた情報発信業務委託

東京都からの委託により、都立動物園等の情報発信強化のため、特設Webページの作成や、電子書籍等の作成と配信を行った。

項目	内容
件名	都立動物園等における環境学習等に関する新たな手法を用いた情報発信業務委託
業務内容	新たな視点で動物園を体感するコンテンツや、新たな環境学習を実践するプログラムやより多くの方に情報を発信するコンテンツなどの制作と、それらにアクセスするためのトップページ及び各コンテンツ紹介ページの制作
期間	令和2年11月13日～令和3年3月31日
委託金額	36,498,000円

第3 収 益 事 業

I. 事業総括

恩賜上野動物園、多摩動物公園、葛西臨海水族園、井の頭自然文化園の利用者の利便性と公益目的の事業の充実のために、以下の事業を実施した。

事業区分	事業細目		
	園名	種別	箇所数
I. 便益施設の経営	(1) 恩賜上野動物園	(1) 売店	3
		(2) 飲食店	2
		(3) 臨時売店	4
		(4) 自動販売機コーナー	12
		(5) ベビーカー貸出所	3
		(6) コインロッカー	2
		(7) フォトサービス	1
		(8) 写真(映像資料)貸出	1
	(2) 多摩動物公園	(1) 売店	4
		(2) 飲食店	1
		(3) 臨時売店	4
		(4) 自動販売機コーナー	13
		(5) ベビーカー貸出所	1
		(6) コインロッカー	1
		(7) ライオンバス	1
		(8) フォトサービス	1
(3) 葛西臨海水族園	(1) 売店	2	
	(2) 飲食店	1	
	(3) 臨時売店	1	
	(4) 自動販売機コーナー	3	
	(5) コインロッカー	2	
	(6) フォトサービス	1	
(4) 井の頭自然文化園	(1) 売店	2	
	(2) 臨時売店	1	
	(3) 自動販売機コーナー	3	
II. その他事業	(1) 恩賜上野動物園内広告事業(広告施設9箇所)		
	(2) 協賛金募集事業(ジャイアントパンダ保護サポート基金等)		

Ⅱ. 事業実績

〔1〕 便益施設等の経営

収益事業においては、新型コロナウイルス感染拡大防止の一環として、都立動物園・水族園の2度にわたる長期休園により、4園の収入は昨年度の約29.6億円から約13.1億円と、大幅な減収、減益となった。

令和2年度としては上野動物園、葛西臨海水族園は約6カ月間、多摩動物公園、井の頭自然文化園は約5カ月間を休園している。(第1期目は、上野動物園及び葛西臨海水族園は、令和2年2月29日から6月22日まで、多摩動物公園は3月28日から6月3日まで、井の頭自然文化園は3月28日から6月1日まで休園。第2期目は、4園ともに12月26日から3月31日まで休園となり、令和3年度へ休園が継続している。)

6月に4園は再開園したが、上野動物園ではシャンシャンの観覧で「密」が発生すること、葛西臨海水族園は屋内施設であることから、感染拡大防止のため入園制限が行われた。再開園に当たっては、入園者と従業員の安全のため、検温の実施等の健康管理、マスクの着用、アルコールによる消毒の徹底やギフト店のレジ周辺及び飲食店のカウンター周辺には飛沫飛散防止フィルムの設置を行い、キャッシュレスの推奨など感染拡大防止対策を行った。

休園や入園制限による収益減の対応策として、通信販売では各園において春に発売を予定していた新商品や賞味期限のある食品ギフト商品などの掲載を4月に開始した。また、シャンシャンの誕生日である6月12日が上野動物園自体の休園期間であったため、要望の多い3歳記念商品は通信販売で先行販売するなどしたこと、休園により通販が増加したことにより、通信販売は昨年度比1,190%増の約2.7億円となった。商品紹介にはTwitterやインスタグラム等のSNSを積極的に活用した。休園、入園制限によって園内での販売が制限されたことから、販路拡大の施策として、2月に2週間、3月に1週間の計2回、京王百貨店新宿店において期間限定店の出店や、書店での商品の委託販売など、園外での販売を実施した。その他に2月から葛西臨海水族園の無料エリアの開放に伴い、ギフトショップアクアスケープと付随するフードショップを再開し、4園商品の販売などを行った。

コロナ禍の影響は商品の企画・開発や制作にも及び、インバウンド需要がなくなったことや、海外からの物流遅延などにより、発売を延期、中止せざるを得ない商品が発生した一方で、入園者予測に基づいて生産した商品が休園等で想定販売数を大きく下回った結果、過剰在庫となり所有の倉庫に収まらないため園外に倉庫を借りるなどの対応を行った。

1. 施設及び収入額

(単位：千円)

園 名	施 設 名	収 入 額
恩賜上野動物園	1. 1号売店 (店名：リトルトランク) 2. 4号売店 (店名：カメレオン) 3. 東園中央広場売店 (店名：バードソング) 4. 飲食店第1号 (店名：さるやまキッチン) 5. 飲食店第2号 (西園) 6. 臨時売店 7. 自動販売機コーナー 8. ベビーカー貸出所 9. コインロッカー 10. フォトサービス 11. 写真 (映像資料) 貸出 12. その他 (通信販売事業を含む)	835,981 (この内、通販 は267,510)
多摩動物公園	1. 2号売店 (コアラ館) 2. 3号売店 (店名：ライオンカフェ) 3. 4号売店 (店名：コレクション) 4. 5号売店 (店名：ズーカフェ) 5. 飲食店 (店名：サバンナキッチン) 6. 臨時売店 7. 自動販売機コーナー 8. ベビーカー貸出所 9. ライオンバス 10. コインロッカー 11. フォトサービス 12. その他	233,516
葛西臨海水族園	1. 1号売店 (店名：アクアマリン) 2. 2号売店 (店名：アクアスケープ) 3. 飲食店 (店名：シーウィンド) 4. 自動販売機コーナー 5. コインロッカー 6. その他	179,077
井の頭自然文化園	1. 1号売店 (店名：はな子カフェ) 2. 2号売店 (店名：こもれび) 3. 自動販売機コーナー 4. その他	57,439
合 計		1,306,014

2. 商品取扱状況

(単位：点)

区 分		恩賜上野 動物園	多摩 動物公園	葛西 臨海水族園	井の頭 自然文化園
取扱商品数		1,175	1,117	1,349	189
内 訳	ギフトその他	946	812	1,202	110
	飲 食 品	229	305	144	79

〔2〕その他の事業

1. 恩賜上野動物園内広告事業

上野動物園の案内誘導サイン等の整備費用に充てるため、園内に設置した下記の広告掲示施設により、広告料金による民間からの資金を得た。

種 別	設 置 場 所	数 量
動物解説ボード	ジャイアントパンダ、ニホンザル、ヒガシクロサイ、アジアゾウ、ニシゴリラ、ワシ・タカ、キリン・オカピ、ハシビロコウ	8基
環境啓発ボード	モノレール東園駅前	1基
収 入 額	1,606 千円	

2. 協賛金募集事業

ジャイアントパンダ保護サポート基金を活用した事業展開のため、園内メディアやイベントの協賛、園外でのロゴマーク協賛等を実施した。

収 入 額	4,259 千円
-------	----------

第4 決 算 概 要 (正味財産増減計算書)

(単位：千円)

科目	公益目的 事業会計	収益事業 会計	法人会計	合計
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
基本財産運用益	2,240	—	3,720	5,960
特定資産運用益	3	—	—	3
受取会費	7,738	—	—	7,738
事業収益	120,478	1,320,185	—	1,440,663
受取寄付金	17,751	—	—	17,751
受取委託料	5,918,830	—	201,516	6,120,346
雑収益	45,179	39,367	170	84,716
経常収益計	6,112,219	1,359,552	205,406	7,677,177
(2) 経常費用				
事業費	6,158,908	1,774,669	—	7,933,577
管理費	—	—	305,008	305,008
経常費用計	6,158,908	1,774,669	305,008	8,238,585
評価損益等	0	△5,180	0	△5,180
当期経常増減額	△46,689	△420,297	△99,602	△566,588
2. 経常外増減の部				
経常外収益	312	4,394	0	4,706
経常外費用	197	32,056	0	32,253
当期経常外増減額	115	△27,662	0	△27,547
他会計振替額	14,729	△106,645	91,916	0
税引前当期一般正味財産額	△31,845	△554,604	△7,686	△594,135
法人税等	—	220	—	220
法人税等調整額	—	△8,008	—	△8,008
当期一般正味財産増減額	△31,845	△546,817	△7,686	△586,348
一般正味財産期首残高	221,475	1,461,519	321,382	2,004,376
一般正味財産期末残高	189,630	914,702	313,696	1,418,028
II 指定正味財産増減の部				
受取寄付金	28,621	0	0	28,621
一般正味財産への振替額	17,751	0	0	17,751
当期指定正味財産増減額	10,871	0	0	10,871
指定正味財産期首残高	221,901	0	0	221,901
指定正味財産期末残高	232,772	0	0	232,772
III 正味財産期末残高	422,402	914,702	313,696	1,650,800

第 5 事 務 報 告

I. 役員会議の開催

〔1〕 評議員会

回	開催月日	議 題
書面決議	5月15日	(1) 理事の選任について
第1回 定時評議員会 (書面決議)	6月26日	(1) 令和元年度決算報告(案)について 監査報告 (2) 理事・監事の選任について (報告事項) 令和元年度事業報告について
臨時評議員会	11月4日	(1) 理事・監事の選任について (報告事項) 新型コロナウイルス感染拡大下における事業運営の状況について
書面決議	3月8日	(1) 常勤理事の報酬に関する規程の一部改正について (2) 常勤理事の報酬総額の変更について
書面決議	3月26日	(1) 理事の選任について

〔2〕 理 事 会

回	開催月日	議 題
書面決議	5月8日	(1) 評議員会の開催について
第1回 定時理事会 (書面決議)	6月10日	(1) 令和元年度事業報告(案)について (2) 令和元年度決算報告(案)について 監査報告 (3) 定時評議員会の開催について (4) 安全衛生管理規程の一部改正について (報告事項) 理事長及び常務理事の職務状況報告
書面決議	6月26日	(1) 理事長の選定について (2) 常務理事の選定について
書面決議	9月30日	(1) 諸規程の一部改正について
書面決議	10月20日	(1) 評議員会の開催について
臨時理事会	11月4日	(報告事項) 新型コロナウイルス感染拡大下における事業運営の状況について (報告事項) 理事長及び常務理事の職務状況報告

回	開催月日	議 題
書面決議	12月10日	(1) 常勤理事の報酬額の変更について
書面決議	2月22日	(1) 評議員会の開催について
書面決議	3月19日	(1) 評議員会の開催について
第2回 定時理事会	3月30日	(1) 令和3年度事業計画(案)について (2) 令和3年度収支予算(案)について (3) 資金調達及び設備投資の見込みについて (4) 理事長の選定について (5) 第4号議案で選定した理事長の報酬額について (6) 参与の委嘱及び報酬額について (7) 事務局長の任免について (報告事項) 理事長及び常務理事の職務状況報告

〔3〕 評議員選定委員会

回	開催月日	議 題
第1回	11月30日	(1) 評議員の退任にともなう後任評議員の選任について

II. 監 査

〔1〕 京橋監査法人と監査契約を締結し、公認会計士による会計帳簿・証憑書類の試査、実地棚卸立会、現金実査、銀行残高確認等の外部監査を実施した。

〔2〕 令和元年度の事業報告及び決算報告について、5月27日に監事による監査を実施した。

Ⅲ. 人事関係

〔1〕 就任・退任

① 評議員の就任

役職名	氏名	就任月日	摘要
評議員	佐野 いくお	11月30日	東京都議会環境・建設委員長
〃	細川 卓巳	11月30日	東京都西部公園緑地事務所長
〃	佐藤 伸朗	11月30日	公益財団法人東京都公園協会理事長

② 評議員の退任

役職名	氏名	退任月日	摘要
評議員	佐野 克彦	8月31日	公益財団法人東京都公園協会理事長
〃	細谷 しょうこ	10月8日	東京都議会環境・建設委員長
〃	佐野 いくお	2月25日	東京都議会環境・建設委員長
〃	今村 保雄	3月15日	東京都建設局次長

③ 理事・監事の就任

役職名	氏名	就任月日	摘要
常務理事	中川 成生	4月1日	前公益財団法人東京動物園協会事業調整担当部長
理事	植村 敦子	5月20日	東京都建設局公園緑地部長
〃	尾崎 清明	11月4日	公益財団法人山階鳥類研究所副所長
監事	半田 昌之	11月4日	公益財団法人日本博物館協会専務理事
理事	今村 保雄	3月26日	東京都建設局次長

④ 理事・監事の退任

役職名	氏名	退任月日	摘要
監事	木村 欣二	4月30日	前あかつき証券株式会社顧問
理事	島津 久永	6月26日	公益財団法人山階鳥類研究所顧問
監事	杉崎 智恵子	7月13日	東京都建設局総務部長
理事長	早川 剛生	3月31日	東京都建設局理事

〔2〕役員等名簿（令和3年3月31日現在）

○総 裁 常陸宮正仁親王

○会 長 貫 洞 哲 夫

（1）評 議 員

No.	氏 名	摘 要
1	林 良 博	国立科学博物館長
2	高 橋 茅 香 子	翻訳家
3	松 島 ト モ 子	俳優
4	内 山 辰	動物写真家
5	久 邦 彦	漫画家・絵本作家
6	海老名 香葉子	エッセイスト
7	遠 藤 秀 紀	東京大学総合研究博物館教授
8	今 泉 忠 明	日本ネコ科動物研究所長
9	林 公 義	前横須賀市自然・人文博物館長
10	三 浦 慎 悟	早稲田大学人間科学学術院名誉教授
11	打 越 綾 子	成城大学法学部教授
12	大 道 和 彦	東京都東部公園緑地事務所長
13	細 川 卓 巳	東京都西部公園緑地事務所長
14	佐 藤 伸 朗	公益財団法人東京都公園協会理事長

(2) 評議員選定委員会

No.	氏名	摘要
1	清水 眞澄	成城大学名誉教授・三井記念美術館館長
2	会田 保彦	ヤマザキ動物看護大学名誉教授
3	高橋 茅香子	翻訳家
4	須賀 光一	上野のれん会会長
5	宮本 均	公益財団法人東京動物園協会総務部長

(3) 理事・監事

No.	役職名	氏名	摘要
1	理事長	早川 剛生	東京都建設局理事
2	常務理事	日浦 憲造	前東京都建設局公園緑地部長
3	常務理事	中川 成生	前公益財団法人東京動物園協会事業調整担当部長
4	理事	菅谷 博	ミュージアムパーク茨城県立自然博物館名誉館長
5	〃	見城 美枝子	青森大学副学長、エッセイスト
6	〃	長谷川 寿一	独立行政法人大学改革支援・学位授与機構理事
7	〃	西 源二郎	東海大学海洋学部客員教授
8	〃	加藤 勉	京王電鉄株式会社相談役
9	〃	鷲谷 いづみ	中央大学理工学部教授
10	〃	村井 良子	有限会社プランニング・ラボ代表取締役
11	〃	尾崎 清明	公益財団法人山階鳥類研究所副所長
12	〃	今村 保雄	東京都建設局次長
13	〃	植村 敦子	東京都建設局公園緑地部長
1	監事	須賀 光一	上野のれん会会長
2	〃	半田 昌之	公益財団法人日本博物館協会専務理事

(4) 参 与

No.	氏 名	摘 要
1	日 橋 一 昭	(公財)東京動物園協会総務部教育普及センター所長

(5) 顧 問

No.	氏 名	摘 要
1	小 池 百 合 子	東京都知事
2	石 内 展 行	元財団法人東京動物園協会理事長
3	浅 倉 繁 春	元財団法人東京動物園協会理事長
4	矢 島 稔	元財団法人東京動物園協会理事長
5	齋 藤 勝	元財団法人東京動物園協会理事長
6	浅 倉 義 信	元公益財団法人東京動物園協会理事長
7	藤 井 芳 弘	元公益財団法人東京動物園協会理事長
8	羽 仁 進	映画監督・評論家

(6) 正会員

[賛助会員] 上 田 浩 上 田 憲 治 上 田 清 一 関 斎
[特別会員] 篠 永 哲

Ⅲ. 組 織 概 要

〔1〕協会の機構

○ 総 裁 常陸宮正仁親王

○ 会 長 貫洞哲夫

機関名	名 称	人数等	摘 要
1. 議決・監督 機関	評 議 員 会	14名	
2. 執行機関	理 事 会	13名	理事長・常務理事を含む
	理 事 長	1名	
	常 務 理 事	2名	
	参 与	1名	
	事 務 局	4部14課48係	
3. 諮問機関	顧 問	8名	
4. 監査機関	監 事	2名	
5. 協力機関	賛 助 会 員	4名	
	特 別 会 員	1名	
	準 会 員	3,572名	東京動物園友の会会員

(令和3年3月31日現在)

[3] 事務局職員数

(単位：人)

固有職員			都派遣職員			合 計		
職 員	嘱託員	計	職 員	再雇用	計	職 員	嘱託員 再雇用	合 計
217	139	356	97	0	97	314	139	453

(令和3年3月31日現在)

